<u>整理番号</u> 11 <mark>−</mark> 28

1	事務事業の表	示		*	■ : 該当						
事	務事業名	学校支援	活動排	隹進	事業						
		担当課名			教育振興課		担当	係名	生涯教育係		
評	価 者	佐田映	職名		課長		/ 	職名		係長	
		管理職	氏名		横田和幸	1	作成者	氏名		佐藤公輔	
事	業の概要	町内小学校及び中学校と地域との連携体制の構築のため地域全体で学校を支援する事業を効果的に実施することにより、地域の教育力の活性化を図る。							全体計画 (平成 23 国・道支 事 地方 その 費 一般則 事業費	出金 千円 債 千円 他 千円 才源 1,330 千円	
実	施方法	直営			民間委託		7	その他()	
	第5期 総 合	計画(前	期)		登載事業		非登	載事業	優先度	Α	
		政策	標	3	のびやか・	雄武~教	∀育•☆	化の振り	I ~.		
					070-173		^		f		
		基本が	拖 策	12	学校教育 <i>0</i>		^		<u> </u>		
事	業の位置付け	基本が単位が		+)充実					
事	業の位置付け	"	拖 策	3	学校教育の)充実	の推進				
事	業の位置付け	単位が	を策りを	3	学校教育の 開かれた学)充実	の推進	É			
事	実施年度	単位が事務事業の		3	学校教育の開かれた学 自治事務 (実績))充実	の推進法定	生 受託事務	度(実績)	24年度(見込)	
	実施年度 国・道支出金	単位が 事務事業の その他計画・ 20年度(実績 千)	施 策 D 種 類 根拠等 21:	3	学校教育の 開かれた学 自治事務 (実績) 千円	充実 学校づくり	の推進 法定 実績) 千円	生 受託事務	度(実績)	千円	
	実施年度 国·道支出金 地方債	単位 事務事業の その他計画・ 20年度(実績 千日	施 策 D 種 類 根 拠 等 D 1:	3	学校教育の 開かれた学 自治事務 (実績) 千円	充実 学校づくり	が 法定 実績) 千円 千円	生 受託事務	度(実績) 千円 千円	<u>千円</u> 千円	
- 事業	実 施 年 度 国・道支出金 地 方 債 その他財源	単位が 事務事業の その他計画・ 20年度(実績 千)	施 策 D 種 類 根 拠 等 D 1:	3	学校教育の 開かれた学 自治事務 (実績) 千円	充実 学校づくり	の推進 法定 実績) 千円	生 受託事務	度(実績)	千円	
	実施年度 国·道支出金 地方債	単位 事務事業の その他計画・ 20年度(実績 千日	他 策 D 種 類 根拠等 D 21:	3	学校教育の 開かれた学 自治事務 (実績) 千円	充実 学校づくり	が 法定 実績) 千円 千円	受託事務	度(実績) 千円 千円	<u>千円</u> 千円	

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理 論上の成果指標)						
【抱える課題や ニーズは】	小中学校と地域住民との連携不足。	各学校の開設数						
- ^1&1		指標(指標計算式/解説) 目標値及び実績値						
		① 雄武小学校、沢木小 学校、幌内小学校、						
【どのような状態 になることを目指	 ・地域と学校の連携体制の構築。	■ 豊丘小学校、共栄小 日 標 個 6 校						
したのか(意図)】	20%に引入り足力を利用来。	学校、雄武中学校 実績値 3校						
		達 成 度 50.0 %						
【その結果、どの		<mark>②</mark> 目標年度						
ような成果を実現	地域の教育力の向上や地域全体で学	<mark>目標値</mark>						
したいか】 ※成果=目的	校教育を支援する体制づくり。	実績値						
		達 成 度 %						
	内 容(どのような手段で	何を行ったか)						
学習支援	総合学習1日間・ミシン学習5日間・オムイ塾6日間・スキー学習23日間・水泳指導2日間							
読書支援	雄武小学校每週水曜日·沢木小学校月1回·共栄小学校月1回							

3 事務事業の評価	F(Chaols)		裏			
(1)事務事業の必要	性(町民ニーズ・社会情	勢に照らして妥当か、町が担う必 障、既存事務事業との機能重複や				
必要 (義務的なもの	学校と地域の連携による学校づく 家庭、地域の意識向上が重要であ 要である。	りや地域づくりに関する、学校、			
	<mark>- □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ </mark>	<mark>- </mark>				
有効 別	設定した目標値の達成 大況 ■ 達成 ほぼ達成	目標値には達することはできなが 導者の登録があり、多種多様な				
課題あり	<u>下回る</u>	1. 終復されませ、 引売 しのーコーナ	ナルファナ <i>ナ</i> しょ <i>ム</i> ン			
(3)事務事業の効率性		とが得られたか、計画上のコストを [・]	トける工大をしたか)			
効率的 型効率的/概ね効率 め/課題あり	事業費抑制 人員削減 時間短縮・作業軽減 ■ その他	地域の素材や既存の備品等を利息	用し事業展開を行っている。			
(4)事務事業の公平性						
公平/概ね公平/公平でない						
B:ほぼ計画通り C:当初の計画を	が進んでいる。目標が に進んでいるが目標に 達成できていない。事	達成された。今後も計画通り事業を 達成していない。事業の進め方に 業規模、内容、実施主体等の見直 合、休・廃止の検討が必要 等	改善が必要 等			
自己評価	(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)			
	Α					
地域と学校との連携に 開を図ることができた。	より、効果的な事業展					
今後の展開方向 (Action)						
継続/3	現状維持		¥			
継続することにより、多でき、地域における意ん						
*展開方向の区分 〇 継続/現状維持	寺又は拡充又は縮小又は	は 統合又は内容の見直し・変更 〇	終了 〇 休止 〇 廃止			
5 その他特記事項		部評価を受けた場合は、その旨記	 [入)			

整理番号 11 <mark>- 29</mark>

1	事務事業の表		>	∀ ■	: 該当	á							
事	務事業名	生涯学習	生涯学習推進事業										
		担当課名			教育振興課 担当係名			各	生涯教育係				
評	価 者	佐田啦	職名		課長		<i>U</i>	+ +	職名		係	長	
		管理職	氏名		横田和幸		1'F /:	成者	氏名		佐蔣	泰公輔	
事	業の概要	町民のライフ 習の活動を終 る。	町民のライフステージやニーズに応じ、生涯にわたり学び・学 習の活動を続けていくために、講座及び学習会等を開催す る。							国・道 事 地 業 そ・費 一般	画 20 年度 支出金 方債 の他 段財源 き費計	3,	年度) 千円 千円 千円 550 千円
実	施方法	■直営			民間委託			その	他 ()
第 5 期 総 合 計 画(前期)													
	弗り期 総 旨	計画(前	期)		登載事業		3	非登載	事業	優先月	₹	В	
	男り 期 総 旨		「期) 目標	3							₹ <mark> </mark>	В	
	弗 5 期 総 合	政 策 目		3	_ 170 7 71	•雄武~	教育	j·文化	の振興		E	В	
	業の位置付け	政 策 E 基 本 が	標	3	のびやか	・雄武~	教育 ポー	・文化	の振興		E	В	
		政 策 E 基 本 が	目標 も策	3	のびやか 生涯学習 学習・スプ	・雄武〜 ・生涯ス ピーツ活!	教育 ポー 動の	・文化	の振興			В	
		政策 基本 が 単位	目 徳 策 で 策 の 種類	3 13 2	のびやか 生涯学習 学習・スプ	・雄武〜 ・生涯ス ピーツ活!	教育 ポー 動の	育・文化 −ツの推)推進	の振興		E	В	
	業の位置付け	政 策 目 基 本 が 単 位 が 事務事業の その他計画・ 20年度(実績	目 標 を 策 を 策 の種類 根拠等	3 13 2	のびやか 生涯学習 学習・スプロカー 自治事務	・雄武〜 ・生涯ス ピーツ活!	教育ポー動の	育・文化 -ツの推)推進 法定受記	の振興 進 託事務	~ (実績)	2	B 4年度(!	
事	業の位置付け 実 施 年 度 国・道支出金	政策 様 本 が 単 位 が 事務事業 の その他計画・ 20年度(実績	目 標 を 策 を 策 の種類 根拠等 1000000000000000000000000000000000000	3 13 2	のびやか生涯学習・スァー 自治事務	・雄武~ ・生涯ス ポーツ活	教育 ポー 動の 	育・文化 一ツの推 り推進 法定受記 積)	の振興 進 託事務	~ (実績) 千円	2		千円
事	業の位置付け 実 施 年 度 国・道支出金 地 方 債	政策 基本 が 単位 が 事務事業の その他計画・ 20年度(実績 干1	世界 を 策 を 策 を 策 根拠等 10 21 円	3 13 2	のびやか 生涯学習 学習・スプ 自治事務 (実績) 千円	・雄武~ ・生涯ス ポーツ活	教育 ポー 動の 	・文化・ツの推進法定受診	の振興 進 託事務 23年度	~ ~ 〔[(実績) 千円 千円	2		千円
事	業の位置付け 実施年度 国・道支出金 地 方 債 その他財源	政策 様 本 が 単 位 が 事務事業 の その他計画・ 20年度(実績 干 「 干 「 干 「 干 「 干 」	世界 を 策 策 を 策 類 根拠等 で 21 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円		のびやか 生涯学習 学習・スァ 自治事務 (実績) 千円 千円	・雄武〜 ・生涯ス ポーツ活 ・ 22年度	教育 ポー 動の <u>ジ</u>	デ・文化 一ツの推 り推進 は法定受記 精) 千円 千円	の振興 進 託事務 23年度	E(実績) 千円 千円 000 千円	2	4年度()	千円 千円 千円
	業の位置付け 実 施 年 度 国・道支出金 地 方 債	政策 基本 が 単位 が 事務事業の その他計画・ 20年度(実績 干1	世界 を 策 策 を 策 類 根拠等 で 21 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円		のびやか 生涯学習 学習・スプ 自治事務 (実績) 千円	・雄武〜 ・生涯ス ポーツ活 ・ 22年度	教育 ポー 動の 	デ・文化 一ツの推 り推進 は法定受記 精) 千円 千円	の振興 進 託事務 23年度	~ ~ 〔[(実績) 千円 千円	2	4年度()	千円

	H) F) TO (I I I I I I I I I I I I I I I I I I I							
【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理 論上の成果指標)						
【抱える課題や	生涯学習ニーズの把握とその活動支援	各学級・講座の開設数						
ニーズは】	対応	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値					
		① 生きがい大学(10/10) 町民大学(4/4)	目標年度	平成23年度				
【どのような状態 になることを目指	┃ ┃ 新しい知識や技能など、生活の向上に	成人講座(1/3)	目標値	17 🛽				
したのか(意図)】	向けた学習機会の提供	づくりセミナー(2/2)	実績値	19 💷				
		J(9セミ) —(2/ 2)	達成度	111.8 %				
【その結果、どの		2	目標年度					
ような成果を実現	生き方や社会のあり方について考え、		目標値					
したいか】 ※成果=目的	判断し、行動する自己高揚		実績値					
次成朱一日的			達成度	%				
	内 容(どのような手段で	何を行ったか)						
生きがい大学	全10回の開催~講話・学習会・芸術鑑賞	賞会・スポーツ交流・西紋	地区交流会					
町民大学	全4回の開催~「あなたならどうする?家族が倒れたら(藤田 智)」・「チェアスキーで金メダル(狩野亮)」・「音と気~生の音楽のすばらしさ(大平まゆみ)」・「地域の可能性とまちづくり (藻谷浩介)」							
成人講座	書道教室							

3 事務事業の評	価(へ)	- a a l s \		裏
	要性(町	民ニーズ・社会情	勢に照らして妥当か、町が担う必 章、既存事務事業との機能重複ぐ	
必要		務的なもの	社会情勢の変化に主体的に対応	
必要/概ね必要/ 課題あり		全部 一部		
(2)事務事業の有効	性(期待	寺する効果が得られ	<i>ヽた</i> か)	
有効 ^{有効/概ね有効}	<mark>状況</mark> 達	た目標値の達成 成 ぼ達成	・多様なジャンルの学習提供によ ている。	り、住民意欲の向上につながっ
課題あり		<u>回る</u>	12/75 1 - - 1 - 1 1 1 1 1	
(3)事務事業の効率			が得られたか、計画上のコストを	下げる工夫をしたか)
効率的 効率的/概ね効率 的/課題あり	事人	判断の理由 業費抑制 員削減 間短縮・作業軽減	町民ニーズに対応したプログラム 向上と事業費精査を行いつつ効≥	
(4)事務事業の公平		0.71世		
(4)事物事未切五十	-	判断の理由	T	
公平 公平/概ね公平/公平でない		益者負担がある 益者負担がない 益が一部に偏る	町民全てが参加できるように配慮	した内容で実施している。
B∶ほぼ計画通 C∶当初の計画	業が進ん りに進ん を達成 ⁻	んでいるが目標に できていない。事業	達成された。今後も計画通り事業を 達成していない。事業の進め方に 美規模、内容、実施主体等の見直 合、休・廃止の検討が必要 等	改善が必要 等
自己評价	<mark>西(一次</mark>	(評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	Α			
計画どおりに実施でを図ることが出来た。		見的に事業の推進		
<mark>今後の展開方[</mark> (Action)	in the second			
継続/	須状	維持	Y	Y
継続した事業の実施習の機会が提供でき への理解と学習への	、地域	における生涯学習		
*展開方向の区分 〇 継続/現状組	負担 は	拡充又は縮小又は	・ 統合又は内容の見直し・変更 〇	終了 〇休止 〇廃止
5 その他特記事項	i (アン	ケート調査など外	部評価を受けた場合は、その旨言	己入)

整理番号 11 <mark>- 30</mark>

1	事務事業の表	示		*	■ : 該当							
事	務事業名	武雄市児	武雄市児童交流事業									
		担当課名			教育振興課			担当係名	各	生涯教育係		
評	価 者	管理職	職名		課長		<i>U</i> =	成者	職名		係長	
		自垤啝	氏名		横田和雪	ŧ	TF.	八 日	氏名		佐藤公輔	
事	業の概要								全体計画 (平成 20 国・道支 事 地方付業 子の付表 事業費	出金 千円 責 千円 也 2,160 千円 t源 10,296 千円		
実	施方法	■直営			民間委託	ŧ		その	他()	
	第5期 総 合	計画(前	期)	-	登載事業 非登載事業 4			優先度	В			
		政 策 目	∃ 標	3	のびやか	・雄武~	∙教育	育·文化	の振興	~		
		基本が	拖 策	13	生涯学習	望・生涯ス	、ポ-	ーツの推	進			
事	業の位置付け	単 位 か	拖 策	3	青少年教	対育の推	進					
		事務事業の	り種類		自治事務	务		法定受託事務				
		その他計画・	根拠等									
	実施年度	20年度(実績	-	年度	(実績)	22年度			23年度	医(実績)	24年度(見込)	
±	国・道支出金	千			千円			千円		千円	千円	
事業	地方債	千l 390 千l			千円 360 千円	7		千円	1 4	千円 .00 千円	<u>千円</u> 480 <u>千円</u>	
耒	その他は追			360 千円 1,547 千円			360 千円 1,487 千円		1,400 <u>千円</u> 956 千円		2,520 <u>千円</u>	
費	その他財源 雄武町負担額 (一般財源)	1,785 <mark>千</mark> 1						千円	9	56 千円		

【誰、何が(対象)】	町内小学生(5年生・6年生)	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)						
【抱える課題や ニーズは】	より多くの異文化や気候風土のための 体験機会の確保	派遣児童16名、引率者4名 受入児童16名、引率者4名 指標(指標計算式/解説) 目標値及び実績値						
【どのような状態 になることを目指 したのか(意図)】	体験による生きる力の醸成とリーダーの 養成	実 績 値 19名						
【その結果、どの ような成果を実現 したいか】 ※成果=目的	実施後の学校及び地域等でのリーダー の期待と学ぶ意欲の促進	達成度 95.0 % ②受入児童及び引率者 目標年度 平成23年度 目標値 20名 実績値 20名 達成度 100 %						
	内 容(どのような手段で	何を行ったか)						
派遣	町内各小学校児童15名、引率者4名派遣。学校交流やホームスティを体験。							
受入	武雄市児童16名、引率者4名を受け入れ。学校交流、共同合宿、雪遊びを体験。							

0 車数車業の部	压 (OL	1-1		裏
3 事務事業の評 (1)事務事業の必要			勢に照らして妥当か、町が担う必	要があるか。当該事務事業
			章、既存事務事業との機能重複な	
必要	義	務的なもの	気候、風土の違う地域との文化的 情操教育、郷土意識の向上及び	g・教育的な交流は、地域児童の 健やかな変容を図るため必要であ
必要/概ね必要/ 課題あり		全部 一部	న .	
(2)事務事業の有効	性(期待	する効果が得られ	いたか)	
有効	<mark>状況</mark> 」」達	た目標値の達成 成 ぼ達成	派遣人数は計画通りではなかっ 土、生活習慣を体験でき、豊かなた。	たが、本町とは違う気候や風 な人間性とたくましい心が養われ
課題あり		回る	720	
(3)事務事業の効率	性(コス	トに見合った効果	が得られたか、計画上のコストを	下げる工夫をしたか)
	2	判断の理由		
効率的	一人	業費抑制 員削減 間短縮・作業軽減	事前調査により交通手段、日程等 んでいる。	・の工夫を行い経費削減に取り組
的/課題あり	■ そ			
(4)事務事業の公平	性			
₩		判断の理由		
公平	受	益者負担がある 益者負担がない	5年生以上の全児童を対象として めているとともに適切な受益者負	
公平/概ね公平/ 公平でない		益が一部に偏る の他	いる。	
B∶ほぼ計画通 C∶当初の計画	業が進 <i>f</i> りに進 <i>f</i> を達成 ⁻	んでいるが目標に できていない。事業	を を を を を は していない。 事業の進め方に を は は 、内容、実施主体等の見直 を 、休・廃止の検討が必要 等	:改善が必要 等
自己評价	西(一次	評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	Α		Α	
児童の体験交流によ 業の実施ができてい		業の目的に沿う事	同左	
今後の展開方[(Action)		ļ		
継続/	現状	維持	継続/現状維持	
地域間交流等の体 次代を担う青少年の 継続が必要である。	角をとお	して、それぞれの	同左	
*展開方向の区分 〇 継続/現状約	推持又は	拡充又は縮小又は	- 統合又は内容の見直し・変更 〇	· 終了 ○ 休止 ○ 廃止

<mark>整理番号</mark> 11 <mark>−</mark> 31

1	1 事務事業の表示											:	該当
事	務事業名	家庭教育	家庭教育推進事業										
		担当課名			教育振興課 担当係名			各		生》	重教育	係	
評	価 者	管理職	職名		課長		.//⊏	成者	職名	係長			
		官垤戦	氏名		横田和雪	幸	TF	八日	氏名		佐	藤公	輔
事	業の概要	休日の拡大に伴い、地域や家庭における教育の役割も増大しており、教育力の低下も叫ばれている中で、子育てをする上でもっとも大切な場である家庭での教育の在り方等、学習機会の支援を行う。							(平	本計画 成 20 年 国・道支出会 地方債 その他 一般財源 事業費計	ALL I	24 年度) 千月 千月 2,000 千月 2,000 千月	
実	施方法	直営			民間委託	ŧ		その	他 ()
	第5期 総 合	·計画(前	期)		登載事業 非登載事業				優先度 B				
		政策	標	3	のびやか	∵雄武~	~教	育∙文化	の振興	!~			
		基本が	逝 策	策 13 生涯学習・生涯スポーツの推進									
事	業の位置付け	単 位 が	逝 策	3	青少年教	枚育の推	進						
		事務事業の)種類		自治事務	ケ	法定受託事務			į			
		その他計画・	根拠等										
	実施年度	20年度(実績		年度	(実績)	22年月	度(実		23年度			24年	度(見込)
#	国・道支出金	千月			千円			千円			千円		千円
事業	地 方 債 その他財源	千F 千F			千円			千円		_	千円 千円		千円
費	雄武町負担額 (一般財源)	291 千F		2	294 千円	2	252	千円	2		千円		350 千円
	合 計	291 千日	円	2	294 千円	2	252	千円	2	84	千円		350 千円

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)							
【抱える課題や	家庭教育環境の向上と、多くの学習機	学級数と参加者							
ニーズは】	会の支援及び情報共有	指標(指標計算式/解説)	目標値	及び実績値					
		① 開設学級	目標年度	平成23年度					
【どのような状態 になることを目指	充実した家庭教育環境の醸成と家庭教		目標値	13 学級					
したのか(意図)】	育を支援する地域づくり		実 績 値	6 学級					
			達成度	46.2 %					
【その結果、どの		②学級及び講演会参 加者	目標年度	平成23年度					
ような成果を実現			目標値	300 名					
したいか】 ※成果=目的	連携		実 績 値	453 名					
次成果一日的			達成度	151.0 %					
	内 容(どのような手段で	何を行ったか)							
家庭教育学級	雄武小学校の6学級を開設し、親子でレ (各PTAの創意、工夫で実施している)	雄武小学校の6学級を開設し、親子でレクリエーションや調理実習を行った。 (各PTAの創意、工夫で実施している)							
家庭教育講演会	講演会「いかりや流人生哲学〜親父から学んだ家庭教育のあり方」(いかりや浩一)の開催 (雄武町PTA連合会との協力のもと実施)								
		<u> </u>							

3 事務事業の評	()	Shook)			表
	要性(町民ニーズ・社会			要があるか。当該事務事業 ・見直しによる対応可能性)
必要		義務的なもの	学級開設をとおして、ふ	れあいと学	やびの学習をするなど、家族と過
<mark>必要/概ね必要/</mark> 課題あり		全部 一部	ごす時間を確保し親子の	の絆が図ら	หอง
(2)事務事業の有効	性(期	月待する効果が得 _り	られたか)		
有効	<mark>状況</mark>	した目標値の達成 達成 ほぼ達成			学校、児童、親の3者のふれあ
有効/概ね有効/ 課題あり		はほ達成 下回る			
			<mark>──L</mark> 果が得られたか、計画上の	Dコストを ⁻	下げる工夫をしたか)
効率的	J□.	判断の理由 事業費抑制 人員削減 時間短縮・作業軽源	的な活動等の支援によ		経費の一部を助成しており、自主 効率的な効果が図られている。
的/課題あり	1 —	その他	~		
(4)事務事業の公平					
公平/概ね公平/公平でない	B	判断の理由 受益者負担がある 受益者負担がない 受益が一部に偏る その他	ており、家庭教育講演会		者による自主企画・自主運営とし 町民の参加として公平な周知啓
B∶ほぼ計画通 C∶当初の計画	業が追 りに追 を達ん	進んでいるが目標 或できていない。事	が達成された。今後も計画 に達成していない。事業の 事業規模、内容、実施主体 統合、休・廃止の検討が必	進め方に 等の見直し	改善が必要 等
		次評価)	評価会議評価(二次		町長評価(三次評価)
	Α				
学校と家庭との連携 図る必要があり、多 計画どおりの事業か	くの学	:級を開設すること	をで		
今後の展開方 (Action)					
――――継続 /	/現	状維持			
家庭教育の充実を限保護者、児童の交流ることで、情報の共らなる家庭教育の向	たの機 有化か	会を継続して提供 「図られるとともに、	す		
*展開方向の区分 〇 継続/現状約	推持又	は拡充又は縮小又	は統合又は内容の見直しす	変更 〇	終了 〇休止 〇廃止
5 その他特記事項	夏(ア	ンケート調査など	外部評価を受けた場合は、	その旨記	!入)

整理番号 11 <mark>- 32</mark>

1	事務事業の表示										*	. :	該当	
事	務事業名	おうむ通学	合宿	事	業									
		担当課名		Ą	教育振興	課		担当係	名	生涯教育係				
評	価 者	在田 聯	哉名		課長		14-	+++	職名		係長			
		管理職 氏名			横田和幸		1°F	成者	氏名			佐藤な	〉輔	
事	業の概要	子ども達の直接体験の中でも不足している生活に関する基本的な知識・技能・習慣についての支援補充をするため、地域の施設を活用した、共同生活体験の調査研究を行う。						(平	本計画 成 22 国·道支 地方位 その位 一般財 事業費	世	23 4	手度) 千円 千円 千円 千円 千円		
実	施方法	直営民間委託その他()		
	第5期 総 合	計画(前期)		■ 登載事業 優先度					В				
		政 策 目	標	3	のびやか	い雄武∕	~教	育∙文化	上の振興	ļ~				
		基 本 施	策	13	生涯学習	・生涯ス	スポ・	ーツの打	推進					
事	業の位置付け	単 位 施	策	3	青少年教	対育の推	進							
		事務事業の	重類		自治事務	务		法定受	託事務					
		その他計画・根	拠等											
	実 施 年 度	20年度(実績)	214	年度	(実績)	22年月	度(実	7.07	23年月	7.12	1247	24호	F度(見	
_	国・道支出金	千円						千円			千円			千円
事業	地方债	千円			千円			千円			千円			千円 一
費	その他財源 雄武町負担額 (一般財源)	千円			千円			千円 千円			千円 千円			千円 千円
	合 計	千円			千円			千円			千円		-	千円

【誰、何が(対象)】	児童	状況を最も	状況を最も端的に表す理				
【抱える課題や ニーズは】	事業展開が可能な施設の確保及び指 導者等の地域ボランティアの体制整備	生活体験等の実施(試行)					
- 201002	4-1-1-00-10-00-1-1-10-1-10-1-10-1-10-1-	指標(指標計算式/解説)	目標値	及び実績値			
		<mark>①</mark> 調査	目標年度	平成23年度			
【どのような状態 になることを目指	子ども達の直接的な体験(生活体験、自 然体験、文化体験)との関わりについて		目標値	1 式			
したのか(意図)】	異年齢の共同生活を通じて支援する。		実 績 値	1 式			
			達成度	100.0 %			
【その結果、どの	 子どもの自立心や生活力の向上、協調	2	目標年度				
ような成果を実現	性、社会性が養われるとともに、大人を		目標値				
したいか】 ※成果=目的	│ 含めた町民の交流等を深め、地域づくり │ につなげる。		実 績 値				
次 成未一日的	10 7 % 17 % 0		達成度	%			
	内 容(どのような手段で	何を行ったか)					
調査	町が取得した雄武農業開発事業所(宿舎)の有効活用としての事業利用の検討の他、人的体制等の対応方策をはじめ事業化の可能性を含めた検討を行った。						

○ 東郊東帯の野	/T/OL L)		裏		
3 事務事業の評 (1)事務事業の必要	要性(町民ニーズ・社会情	勢に照らして妥当か、町が担う必			
_	を実施しない場合の支援	章、既存事務事業との機能重複や	見直しによる対応可能性)		
必要	義務的なもの	現段階において事業自体の必要	生があるとの認識に立ち試行的		
<mark>必要/概ね必要/</mark> 課題あり	全部一部	実施にむけ調査を進めた。			
(2)事務事業の有効	性(期待する効果が得られ	<i>へた</i> か)			
有効	設定した目標値の達成 <mark>状況</mark> ■ 達成	事業の必要度は高いが、予定を なるなどの、調査結果が得られた			
有効/概ね有効/ 課題あり	<mark>ほぼ達成</mark> <mark>下回る</mark>	O O O C O C BALLARIAN TO TO SHOW			
(3)事務事業の効率	性(コストに見合った効果	が得られたか、計画上のコストを	下げる工夫をしたか)		
効率的	判断の理由 事業費抑制 人員削減	コストをかけずに調査を実施し、一	-定の成果を上げることができた		
効率的/概ね効率 的/課題あり	時間短縮·作業軽減 ■ その他	ことから効率的である。			
(4)事務事業の公平					
公平	判断の理由 受益者負担がある 受益者負担がない	- 事業参加対象全児童からの要望			
公平/概ね公平/公平でない	受益が一部に偏る ■ その他	把握することができたが、施設確保を保つことができなかった。			
B∶ほぼ計画通 C∶当初の計画	業が進んでいる。目標が遠 りに進んでいるが目標にき を達成できていない。事業	達成された。今後も計画通り事業を 達成していない。事業の進め方に 美規模、内容、実施主体等の見直 合、休・廃止の検討が必要 等	改善が必要 等		
自己評价	西(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)		
	В	В			
調査検討を進めてき 設活用が困難になっ は難しいと思わる。	たところであるが、地域施たことから、試行的実施	同左			
<mark>今後の展開方</mark> [(Action)	i				
	廃止	休止			
		施設活用が困難になったことから、当面休止とする。			
*展開方向の区分 〇 継続/現状総	#持又は拡充又は縮小又は	統合又は内容の見直し・変更 〇	終了 〇 休止 〇 廃止		

<u>整理番号</u> 11 <mark>−</mark> 33

1	事務事業の表示										. :	該当
事	務事業名	町民センタ	町民センター施設更新事業									
		担当課名	3	,	教育振興	課		担当係	名	生涯教育係		
評	価 者	管理職	職名		課長		作成者		職名		係長	
		官连戦	氏名		横田和雪	幸	TF	八日	氏名		佐藤公	輔
事	業の概要	る施設の維持管理及び経費削減とともに、町民に利用しやすい施設として計画的に更新改修等を実施する。						全体計画 (平成 21国・道式事 事 世方 その 一般 事業者	tida 情 他 才源	24 年度) 1,733 千円 千円 30,154 千円 31,887 千円		
実	施方法	直営	直営民間委託その他(•)	
	第5期 総 合	·計画(前	期)		登載事業 非登載事業			優先度		В		
		政策	標	3	のびやか	∵雄武~	~教	育·文化	の振興	~		
		基 本 施 策 13 生涯学習・生涯スポーツの推進										
事	業の位置付け	単 位 旅	逝 策	5	施設•備	品の有効	沙活	用				
		事務事業の)種類		自治事務 法定受託事務							
		その他計画・	根拠等									
	実施年度	20年度(実績			(実績)	22年[变(実		23年度	医(実績)	24年	度(見込)
_	国・道支出金	千月	_	1,6	680 千円			千円		千円		千円
事業	地 方 債 その他財源	千月	_		千円			千円		千円		千円 千円
費	雄武町負担額 (一般財源)	千F 千F		1,5	千円 565 千円		172	千円	14,3	<u>千円</u> 343 千円	11	千円 ,770 <mark>千円</mark>
	合 計	千F	၂	3,2	245 千円		172	千円	14,3	43 千円	11	,770 千円

【誰、何が(対象)】	町民センター	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理 論上の成果指標)						
【抱える課題やニーズは】	ー 利用者及び世代層に対応した設備等の 更新	大集会室床改修、高圧引込ケーブル工事、バリアフリー化 工事、トイレ改修工事						
	史制	指標(指標計算式/解説) 目標値及び実績値						
		プ大集会室長尺塩ビ <mark>目標年度</mark> 平成23年度 シート張替え。高圧						
【どのような状態 になることを目指	│ 利用者のニーズ等に対応した施設内容 │ にすることで、町民に利用しやすい施設	<mark>┃</mark> ケーブル更新。バリ <mark>目 標 値</mark> 1 式						
したのか(意図)】	環境の構築を図る。	アフリー化。1階トイ実積値 1式レ改修。						
		達成度 100.0 %						
【その結果、どの		<mark>②</mark> <mark>目標年度</mark>						
ような成果を実現	利用者のニーズ等に対応した施設の整	<mark>目標値</mark>						
したいか】 ※成果=目的	備と適切な維持管理	実績値						
		達 成 度 %						
	内 容(どのような手段で	何を行ったか)						
大集会室床改修	長尺塩ビシート張替え(町内業者による)	見積合わせ)						
高圧ケーブル更新	20メートルケーブル更新(町内業者による見積合わせ)							
バリアフリー化工 事	踏石、手摺設置(指名競争入札)							
トイルみ修丁重	1陛里女トイル及び名日的トイル改修(指	タ語争入制)						

0 東郊東米の野	/т / О!			裏
3 事務事業の評 (1)事務事業の必要			勢に照らして妥当か、町が担う必	要があるか。当該事務事業
(1), 33, 5144 25			章、既存事務事業との機能重複や	
必要		務的なもの	利用者ニーズ等に対応し、老朽化 する必要がある。	にした設備の整備を計画的に実施
<mark>必要/概ね必要/</mark> 課題あり	_	_全部 一部	ラ の近 女 ハ * の * の 。	
(2)事務事業の有効	性(期1		れたか)	
有効	設定し 状況 ■ 達	た目標値の達成	予定どおりに事業が実施され、私	利用者のニーズに対応した整備
有効/概ね有効/ 課題あり	[a	に に で 回る	とともに利便性の向上が図られた	
(3)事務事業の効率	性(コ/	ストに見合った効果	が得られたか、計画上のコストを	下げる工夫をしたか)
効率的		判断の理由 事業費抑制 、員削減 ・間短縮・作業軽減	町内業者による指名競争入札と 率的な整備を行った。	見積合せにより適切な事業費で効
的/課題あり	-	-の他		
(4)事務事業の公平	性			
公平 公平/概ね公平/ 公平でない	受受	判断の理由 益者負担がある 益者負担がない 益が一部に偏る の他	町民センターは一般町民が利用の たれている。	D対象であることから公平性は保
B∶ほぼ計画通 C∶当初の計画:	業が進 りに進 を達成	んでいるが目標に できていない。事業	達成された。今後も計画通り事業を 達成していない。事業の進め方に 美規模、内容、実施主体等の見直 合、休・廃止の検討が必要 等	改善が必要 等
自己評価	西(一次	マ評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	Α			
利用の利便性を向上ことができた。	こさせる	事業の実施を図る		
<mark>今後の展開方</mark> [(Action)				
継続/	′現壮	犬維持	, i	·
利用者のニーズに対 要である。	応した	整備の充実が必		
*展開方向の区分 〇 継続/現状組	持又に	は拡充又は縮小又は	統合又は内容の見直し・変更 〇	終了 〇休止 〇廃止
5 その他特記事項	(アン	ケート調査など外	部評価を受けた場合は、その旨記	三人)

<u>整理番号</u> 11 <mark>−</mark> 34

_1	事務事業の表		*	= :	該当							
事	務事業名	社会教育	事業月	刊公	用車更	新事業	ŧ					
		担当課名	ጟ	Ž	教育振興	課	担	旦当係:	名	生涯教育係		
評 価 者		管理職	職名		課長		/r ct =z		職名	主査		
		作成者 氏名 横田和幸 作成者		氏名		櫻井輝	!久					
		経年からの老	*朽化が	見ら	れるため、	公用車を	更新	fする。		全体計画	左击	20 左束)
										(平成 23 国·道支		23 <mark>年度)</mark> 千円
事	事業の概要										千円	
-									業その		千円	
									費 一般則	才源	3,056 千円	
										事業費	計	3,056 千円
実	施 方 法	直営民間委託 その他()		
第5期総合計画(前期)												
	第5期総合	計画(前	期)		登載事業	É	3	非登載	事業	優先度		В
	第5期総合	計画(前 政策		3	登載事業のびやか							В
	第5期総合		標	_	のびやか	·雄武~	教育	f·文化	の振興			В
事	第 5 期 総 合 業の位置付け	政策	標策	3	のびやか	・雄武~	教育	育・文化 −ツの推	の振興			В
事		政 策 E 基 本 が	想 標 施 策 施 策	3 13	のびやか生涯学習	ヽ・雄武〜 冒・生涯ス 品の有効	· 教育 ポー b活用	f・文化 -ツの推 用	の振興			В
事		政策 目 基本 が 単位 が	担 標	3 13 5	のびやか 生涯学習 施設・備	ヽ・雄武〜 冒・生涯ス 品の有効	· 教育 ポー b活用	f・文化 -ツの推 用	の振興生進			В
事		政 策 E 基 本 が 単 位 が 事務事業の	相標 施策 施策 超類 根拠等	3 13 5	のびやか 生涯学習 施設・備	ヽ・雄武〜 冒・生涯ス 品の有効	· 教育 パポー 加活用 	f・文化 -ツの指 用 去定受	の振興 推進 託事務		24年	B - - - - - - - - - - - - - - - - - - -
事	業の位置付け 実施年度 国・道支出金	政策 E基本 が 単位が 事務事業の その他計画・	世 版 版 策 D 種類 根拠等	3 13 5	のびやか 生涯学習 施設・備 自治事務	・雄武〜 留・生涯ス 品の有効 ⁸	・ 教育 ボー 加活用 (実)	f・文化 -ツの指 用 去定受	の振興 推進 託事務	~	24年	
	業の位置付け 実 施 年 度 国・道支出金 地 方 債	政 策 E 基 本 が 単 位 が 事務事業の その他計画・ 20年度(実績	据 策 策 2 種類 根拠等 [) 21	3 13 5	のびやか 生涯学習 施設・備 自治事務	・雄武〜 留・生涯ス 品の有効 ⁸	· 教育 · ポー 加活用 芝(実	・文化・ツの指 ・ツの指 ま定受 績)	の振興 推進 託事務	~ (実績)	24年	:度(見込)
事業	業の位置付け 実 施 年 度 国・道支出金 地 方 債 その他財源	政 策 E 基 本 が 単 位 が 事務事業の その他計画・ 20年度(実績	標 版 策 D 種類 根拠等 D 21	3 13 5	のびやか 生涯学習 施設・備 自治事務 (実績)	・雄武〜 留・生涯ス 品の有効 ⁸	・教育 : ポー : 加活用 : E(実施 : = -	ででは、 ・文化・ツの指 を表定受 を表定受	の振興 推進 託事務	~ (実績) 千円	24年	·度(見込) 千円
	業の位置付け 実 施 年 度 国・道支出金 地 方 債	政 策 E 基 本 が 単 位 が 事務事業の その他計画・ 20年度(実績 干 F F F F F F F F F F F F F F F F F F	標 版 策 D 種類 根拠等 T T T T T T T T T T T T T T T T T T T	3 13 5	のびやか 生涯学習 施設・備 自治事務 (実績) 千円	・雄武〜 留・生涯ス 品の有効 ⁸	· 教育 ポー 加活用 (実)	f・文化 -ツの指 去定受 精) 千円	だの振興 注進 託事務 23年度	~ (実績) 千円 千円	24年	· 度(見込) 千円 千円

【誰、何が(対象)】	職員·公用車	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論 上の成果指標)					
【抱える課題やニーズは】	経年劣化による、安全性及び燃料効率の 問題	公用車更新	_				
_ /(io/ ₂	I FARE	指標(指標計算式/解説)					
		① 公用車更新	目標年度	平成23年度			
【どのような状態 になることを目指	■ 更新による、公用車の安全な運用。 ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	目標値	1 式				
したのか(意図)】	文利による、公用手の女主な庭用。	1 式					
			式/解説) 目標値及び実績値 目標年度 平成23年度 目標値 1 式				
【その結果、どの		2	目標年度				
ような成果を実現	スエニルにのバスロンドニムがロデル						
したいか】 ※成果=目的	に使用することができる。	天 根 世					
△ 从			達成度	%			
	内 容(どのような手段で	何を行ったか)					
公用車更新	車両購入(トヨタ ハイエースバン 1台)						

3 事務事業の評				裏			
(1)事務事業の必			勢に照らして妥当か、町が担う必要 章、既存事務事業との機能重複や				
必要		務的なもの	社会教育事業に使用する公用車で要である。	であり、生涯教育の推進のため必			
<mark>必要/概ね必要/</mark> 課題あり		全部 一部	文 (める。				
(2)事務事業の有効	カ性(期待	する効果が得られ	<i>いた</i> か)				
有効			- 公用車更新により、運転の安全	牛が確保された。			
有効/概ね有効/ 課題あり	ほ 下	ぎ達成 回る					
(3)事務事業の効率	性(コス	トに見合った効果だ	が得られたか、計画上のコストをT	「げる工夫をしたか)			
効率的	事	判断の理由 業費抑制 員削減 ^{引短縮・} 作業軽減	・ 利便性が大幅に上がり、またオー きる職員が増えるなどの効果を得				
的/課題あり	■ そ(の他					
(4)事務事業の公平							
公平		<mark>判断の理由</mark> 益者負担がある 益者負担がない 益が一部に偏る	町民を対象とする社会教育事業用の公用車であり、公平性は保た れている。				
公平でない	■ ₹0						
B∶ほぼ計画通 C∶当初の計画	業が進ん 動に進ん īを達成で	っているが目標に遠 できていない。事業	i成された。今後も計画通り事業を 達成していない。事業の進め方にさ 規模、内容、実施主体等の見直し 合、休・廃止の検討が必要 等	收善が必要 等			
自己評	· <mark>価(一次</mark>	評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)			
	<u> </u>						
計画通り更新するこ	とが出来	<i>t</i> =。					
<mark>今後の展開方</mark> (Action)	P	7					
	終了			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			
更新を終了したため)。						
*展開方向の区分 〇 継続/現状	維持又は抗	広充又は縮小又は約	た合又は内容の見直し·変更 O	終了 〇 休止 〇 廃止			
5 その他特記事項	頁(アング	ァート調査など外部	部評価を受けた場合は、その旨記	入)			

整理番号 11 - 35

_1	事務事業の表	示					*	■ : 該当			
事	務事業名	沢木公民	馆解体	本事業							
		担当課名	İ	教育振興	課	ŧ	担当係名	3	生涯教育係		
評	価 者	管理職	職名	課長		作成者		職名	係長		
		官理戦	氏名	横田和	幸	TF	队	氏名		佐藤公輔	
		老朽化等によ	り、鉄電	骨造一部ブロ	ック造54	7. 4	I7㎡の角	解体と		/単年度のみ	
		除去工事。							(平成 23 国・道支		
事	業の概要								事地方		
Ŧ							業 その				
									費一般則		
										計 11,130 千円	
実	施方法	直営	■ 直 営 民間委託 その他 ()	
	第5期総合	計画(前	朝)	■登載事業	Ě	-	非登載	事業	優先度	В	
		政 策 目	標	3 のびやだ)・雄武〜	~教育	育・文化	の振興	~		
		基本施	基本施策 13 生涯学習・生涯スポーツの推進								
事	業の位置付け	単 位 施	策	5 施設•備	品の有效	为活月	1				
		事務事業の	種類	■自治事務	■ 自治事務 法定受託事			托事務	務		
		その他計画・村	艮拠等								
	実 施 年 度	20年度(実績	214	年度(実績)	22年月	度(実	績)	23年度	延(実績)	24年度(見込)	
	国·道支出金	千円	}	千円		-	千円		千円	千円	
事業	地 方 債	千円]	千円		-	千円		千円	千円	
業	その他財源	千円]	千円			千円		千円	千円	
雄武町負担額 (一般財源		千円	}	千円			千円	11,1	30 千円	千円	
	<u> </u>	千円]	千円			千円	11,1	30 千円	千円	

【誰、何が(対象)】	公民館	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理 論上の成果指標)					
【抱える課題や ニーズは】	経年劣化等により、施設の安全確保等 に支障が生じている。	547. 47㎡解体·除去					
- 7/16/		指標(指標計算式/解説)	目標値	直及び実績値			
		①解体·除去	目標年度	平成23年度			
【どのような状態 になることを目指	施設解体による環境整備と安全確保。		目標値	1 式			
したのか(意図)】	心政府所により次先を開こ又主権が。		実 績 値	1 式			
			達成度	100.0 %			
【その結果、どの		2	目標年度				
ような成果を実現	施設解体後の新施設整備。		目標値				
したいか】 ※成果=目的		実 績 値					
次成朱一日的			達成度	%			
	内 容(どのような手段で	何を行ったか)					
施設解体	施設解体・除去工事(町内業者による指名競争入札)						

	裏								
3 事務事業の評 (1)事務事業の必要			勢に照らして妥当か、町が担う必	要があるか。当該事務事業					
(1)			章、既存事務事業との機能重複な						
必要	義	務的なもの	公民館機能としての役割を果たし	、新たな施設を建設することで地					
必要/概ね必要/ 課題あり		全部 一部	域住民の利便性が図られる。						
有効	設定し 状況 ■ 達	た目標値の達成成	予定どおりに事業が実施され、迅	豊境整備が図られた。					
有効/概ね有効/ 課題あり	ほ	 ぼ達成 回る		KANTE IIII O ET AUROLO					
(3)事務事業の効率	性(コス	トに見合った効果	が得られたか、計画上のコストを	下げる工夫をしたか)					
		判断の理由							
効率的	一人	業費抑制 員削減 間短縮·作業軽減	町内業者3社による指名競争入木 整備を行った。	しにより適切な事業費で効率的な					
的/課題あり		の他							
(4)事務事業の公平	性								
公平	受	判断の理由 益者負担がある 益者負担がない	解体後も新規施設建設が見込ま	れていることから、利用の公平性					
公平/概ね公平/公平でない	受そ	益が一部に偏る の他	は保たれている。						
B∶ほぼ計画通 C∶当初の計画 [:]	業が進ん りに進ん を達成・	もでいるが目標に できていない。事業	達成された。今後も計画通り事業を 達成していない。事業の進め方に き規模、内容、実施主体等の見直 合、休・廃止の検討が必要 等	改善が必要 等					
自己評価	西(一次	(評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)					
	Α								
本事業の目的に沿う	事業実	施ができた。							
<mark>今後の展開方</mark> [(Action)									
;	<u>終了</u>		· .						
工事を終了したため	0								
* 展開方向の区分 〇 継続/現状維	掛又は	拡充又は縮小又は	┃ 統合又は内容の見直し・変更 〇	 終了 ○ 休止 ○ 廃止					
			部評価を受けた場合は、その旨言						

整理番号 11 <mark>- 36</mark>

_1	1 事務事業の表示									*	■ : =	該当
事	務事業名	芸術文化	芸術文化公演事業									
		担当課名		教	教育振興課		担当係名		生涯教育係			
評 価 者		左	職名		課長		<i>U</i>	++	職名		係長	
		管理職	氏名	名 横田和幸		Ē	1'F J	成者	氏名		佐藤公輔	甫
事	業の概要	舞台芸術の機会に恵まれない本町において、児童・生徒等を対象に演劇や音楽などの鑑賞機会を支援し、生の芸術にふれる場をつくり、情操の涵養を図るとともに、芸術への理解を深め地域文化の活性化を図るよう推進している。						全体計画 (平成 20 事 地方 業 その ー般則 事業費	t出金 債 他 才源	24 年度) 千円 千円 300 千円 13,075 千円		
実	施方法	直営		j	民間委託	£		その)他 ()
	第5期総合	計画(前	期)	I	登載事業	<u> </u>	1	非登載	事業	優先度		В
	第5期総合		<mark>「期)</mark> 目 標		登載事業のびやか							В
	第5期総合	政策		3 (_ 100 0 01	·雄武~	~教育					В
	第 5 期 総 合 業の位置付け	政 策 基 本 が	目 標	3 (のびやか	・雄武〜 化の振興	~教育	育·文化				В
		政 策 基 本 が	目 標 施 策 施 策	3 (のびやか芸術・文	・雄武〜 化の振興 化活動の	·教育 與 D促近	育·文化	の振興			В
		政 策 基 本 ガ 単 位 ガ	ョ 標 施 策 施 策 の種類	3 (のびやか 芸術・文· 芸術・文·	・雄武〜 化の振興 化活動の	·教育 與 D促近	育•文化 進	の振興			В
	業の位置付け	政 策 基 本 が 単 位 が 事務事業(その他計画・20年度(実	国 標 施 策 施 策 の種類 ·根拠等 責) 21	3 (14 = 2 =	のびやか 芸術・文 芸術・文 自治事務 (実績)	・雄武〜 化の振興 化活動の	~ 教育 型 D 促進 度(実	育·文化 進 法定受	の振興 託事務 23年度	·~ [(実績)		度(見込)
事	業の位置付け 実 <u>施年度</u> 国・道支出金	政策 基本が 単位が 事務事業(その他計画・ 20年度(実績	ヨ 標 施 策 施 策 の種類 ・根拠等 責) 21	3 (14 = 2 =	のびやか 芸術・文 芸術・文 自治事務 (実績) 干円	・雄武〜 化の振興 化活動の	· 教育 即 D 促追 (実)	(香·文化 生 法定受 (積) ↓	の振興 託事務 23年度	.~ E(実績) 00 千円		度(見込) 千円
事	業の位置付け 実 施 年 度 国・道支出金 地 方 債	政 策 基 本 が 単 位 が 事務事業(その他計画) 20年度(実績 千	目 標	3 (c) 14 = 1	のびやか 芸術・文 芸術・文 自治事務 (実績) 千円 千円	・雄武〜 化の振興 化活動の	· 教育 D 促 道 ** ** ** ** ** ** ** **	传·文化 生 法定受 精) 千円	の振興 託事務 23年度 5	·~ (実績) 00 千円 千円		度(見込) 千円 千円
事 事業	業の位置付け 実 施 年 度 国・道支出金 地 方 債 その他財源	政策 基本が 単位が 事務事業(その他計画・ 20年度(実績	目 標	3 (c) 14 = 1	のびやか 芸術・文 芸術・文 自治事務 (実績) 干円	・雄武〜 化の振興 化活動の	· 教育 D 促 道 ** ** ** ** ** ** ** **	(香·文化 生 法定受 (積) ↓	の振興 託事務 23年度 5	(実績) 00 千円 千円 93 千円		度(見込) 千円
事	業の位置付け 実 施 年 度 国・道支出金 地 方 債	政 策 基 本 が 単 位 が 事務事業(その他計画) 20年度(実績 千	ヨ 標 施 策 施 策 の種類 根拠等 責) 21 円	3 (14 = 2 = 15 = 15 = 15 = 15 = 15 = 15 = 15	のびやか 芸術・文 芸術・文 自治事務 (実績) 千円 千円	・雄武〜 化の振興 化活動の	· 教育 D 促 道 ** ** ** ** ** ** ** **	情·文化 生法定受持 行門 千円	の振興 託事務 23年度 5	·~ (実績) 00 千円 千円	24年月	度(見込) 千円 千円

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)					
【抱える課題や ニーズは】	限られた事業費で多様なニーズに対応 したメニューを設定することが課題であ	鑑賞会開催回数					
- 7127	る。	指標(指標計算式/解説)	目標値	及び実績値			
		① 開催回数	目標年度	平成23年度			
【どのような状態	になることを目指 芸術への興味や理解の促進		目標値	4 🗉			
したのか(意図)】			実 績 値	4 回			
			達成度	及び実績値 平成23年度 4回 4回 100.0 % 平成23年度 250人 201人 80.4 %			
【その結果、どの		② 文化講演会参加者	目標年度	平成23年度			
ような成果を実現	芸術文化への理解を深めることで、地域における芸術文化への取り組みが活		目標値	250 人			
したいか】 ※成果=目的	発化し、芸術鑑賞の機会が増える。		実 績 値	201 人			
次 成朱一日的			達成度	80.4 %			
	内 容(どのような手段で	何を行ったか)					
鑑賞会の開催	保育所及び小学1~2年生~(人形劇)、 高校生(音楽鑑賞)	小学3~6年生(演劇)	、 中学生 (⁻	音楽鑑賞)			
文化公演事業	林家木久扇・一龍斎貞水二人会(落語3名・講談1名)						

o 古沙古华本王	; /ac / ~				裏
3 事務事業の評 (1)事務事業の必要	要性(田	丁民ニーズ・社会情			要があるか。当該事務事業 ・見直しによる対応可能性)
必要		義務的なもの			他の地域との芸術文化に関する 多くの芸術鑑賞の場を提供し、
<mark>必要/概ね必要/</mark> 課題あり		全部 一部	町民の芸術文化に対	けする知識等?	を高めるため必要な事業である。
(2)事務事業の有効	性(期	待する効果が得られ	れたか)		
有効	<mark>状況</mark> ■ 遠	」た目標値の達成 を成 まぼ達成			応じた芸術鑑賞の場を提供する :識の向上を図ることができた。
課題あり	1 —	下回る			
(3)事務事業の効率	性(コ	ストに見合った効果	· が得られたか、計画.	上のコストを	<u></u> 下げる工夫をしたか)
効率的		判断の理由 厚業費抑制 し員削減 時間短縮・作業軽減			の工夫を行いつつ、ニーズに 芸術文化への意識と教養の向上
的/課題あり	■ そ	その他			
(4)事務事業の公平	·性				
公平 公平/概ね公平/ 公平でない	公平/概ね公平/ 受益者負担がない 受益が一部に偏る			び、町内の児 齢者)	見童・生徒としており、公平性は保
B∶ほぼ計画通 C∶当初の計画	業が進 りに進 を達成	んでいるが目標に できていない。事業	達成された。今後も計 達成していない。事業 美規模、内容、実施主 合、休・廃止の検討か	の進め方に 体等の見直	改善が必要 等
自己評·	価(一)	欠評価)	評価会議評価(二	上次評価)	町長評価(三次評価)
	Α				
計画どおり事業を実 る実施効果を得るこ	!施する とが出	ことができ、期待す 来た。			
今後の展開方 (Action)	<mark>∕</mark> ,				
継続/	<u> / 現</u> れ	<u>犬維持</u>	·		
芸術鑑賞を通じて芸につけ、学校等でそ継続して場の提供を め事業の継続が必要	の成果するこ	が発揮できるよう とが重要であるた			
*展開方向の区分 〇 継続/現状約	推持又[は拡充又は縮小又は	統合又は内容の見直し	 √·変更 O	終了 〇休止 〇廃止
5 その他特記事項	(ア)	ノケート調査など外·	部評価を受けた場合	は、その旨記	2入)

整理番号 11 <mark>- 37</mark>

1	事務事業の表	示									* ■	: 該	当
事	務事業名	陶芸推進	事業										
		担当課名	呂	Į.	教育振興課		担当係名		生涯教育係				
評	価 者	管理職	職名		課長		<i>∪</i> ⊢ ⊢	· -1 ×	職名			係長	
		官连戦	氏名		横田和雪	ŧ	作成	.伯	氏名		佐	佐藤公輔	
事	業の概要	とが出来るよ							平事業費	計画 成 20 年 国・道支出: 地方債 その他 一般財源 事業費計	金 金 系	年度) 千円 千円 千円 3,800 千円	
実	施方法	直営			民間委託	f.		その	他()
第 5 期 総 合 計 画 (前期)					~ VII-1 >> H	_		C	.— 、				
	第5期 総 合		期)		登載事業		非	登載	_	優:	先度	В	
	第5期 総 合			3	登載事業			登載	事業		先度	В	
	第5期総合	計画(前	標	3	登載事業	ヾ雄武~孝		登載	事業		先度	В	
	第 5 期 総 合 業の位置付け	計画(前 政策 E	書標 策	3	登載事業のびやか芸術・文を	ヾ雄武~孝	教育	登載	事業		先度	В	
		計画(前 政策 目 基本 が	標	3	登載事業のびやか芸術・文・芸術・文・	に い雄武〜孝 化の振興 化活動の(炎育 足進	登載:	事業		先度	В	
		計画(前) 政策目 基本が 単位が	目 標 施 策 D 種類	3 14 2	登載事業 のびやか 芸術・文 芸術・文	た い雄武〜孝 化の振興 化活動の(炎育 足進	登載:	事業の振興		先度	В	
	業の位置付け	計画(前 政策 基本が 単位が 事務事業の その他計画・ 20年度(実績	目 標 施 策 施 策 D 種 類 根拠等	3 14 2	登載事業 のびやか 芸術・文 芸術・文 自治事務	た い雄武〜孝 化の振興 化活動の(食育 足進 法 実績	登載 文化 定受	事業の振興	~ (実	績)	B 24年度	〔見込〕
事	業の位置付け 実 施 年 度 国・道支出金	計画(前 政策 目 基本が 単位が 事務事業の その他計画・ 20年度(実績	目 標 施 策 D 種類 根拠等 21	3 14 2	登載事業のびやか芸術・文芸術・文自治事務	を い雄武〜孝 化の振興 化活動の位	文章 足進 法 実績	登載 · 文化 · 定受 ·	事業の振興	~ ~ E(実	績)		(見込) 千円
事	業の位置付け 実 施 年 度 国・道支出金 地 方 債	計画(前 政策 E 基本が 単位が 事務事業の その他計画・ 20年度(実績 千円	世界 を 策 を 策 を 策 を 様 を で を で を で を で を で を で を で を で	3 14 2	登載事業 のびやか 芸術・文 芸術・文 自治事務 (実績) 千円	を い雄武〜孝 化の振興 化活動の位	文 定 法 実 程 千 千	登載。·文化 定受記	事業の振興	~ (実 :	績) 千円		(見込) 千円 千円
事	業の位置付け 実 施 年 度 国・道支出金 地 方 債 その他財源	計画(前 政策 目 基本が 単位が 事務事業の その他計画・ 20年度(実績 千月	世界 を 策 策 を 策 類 根拠等 で 21 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円	3 14 2 ■ 年度	登載事業 のびやか 芸術・文 芸術・文 自治事務 (実績) 千円 千円	と い・雄武〜孝 化の振興 化活動の(る 22年度(育 進 法 実 千 千 千	受献。 ·文化 定受。 円円円円	事業 の振興 託事務 23年度	~ (実 :-	績) 千円 千円	24年度	(見込) 千円 千円 千円
	業の位置付け 実 施 年 度 国・道支出金 地 方 債	計画(前 政策 E 基本が 単位が 事務事業の その他計画・ 20年度(実績 千円	世界 を 策 策 を 策 類 根拠等 で 21 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円	3 14 2 ■ 年度	登載事業 のびやか 芸術・文 芸術・文 自治事務 (実績) 千円	と い・雄武〜孝 化の振興 化活動の(る 22年度(文 定 法 実 程 千 千	受献。 ·文化 定受。 円円円円	事業 の振興 託事務 23年度	~ (実 :	績) 千円 千円	24年度	(見込) 千円 千円

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)				
【抱える課題や	陶芸愛好者による自立した活動へのシ	年間利用者数				
ニーズは】	フト	指標(指標計算式/解説) 目標値及び実績値				
		① 年間利用者数	目標年度	平成23年度		
【どのような状態 になることを目指	陶芸工房管理人体制の現状維持と文化		目標値	600 名		
したのか(意図)】	の伝承活動と作陶技術の向上。		実 績 値	424 名		
			達成度	70.7 %		
【その結果、どの		2	目標年度			
ような成果を実現	陶芸文化の継続と文化的な活動の活性		目標値			
したいか 】 ※成果=目的	化とともに生涯学習の支援を行う		実 績 値			
次 <u>成</u> 来一日的			達成度	%		
	内 容(どのような手段で	何を行ったか)				
陶芸活動の推進	産業まつり、町民文化祭への作品出店					
管理人配置	陶芸愛好者への指導(3名配置、週3日間指導)					

0 東変声業の証	Æ (O)			裏
3 事務事業の評 (1)事務事業の必要			勢に照らして妥当か、町が担う必	要があるか。当該事務事業
			章、既存事務事業との機能重複な	
必要	義	務的なもの	芸術文化の取り組みとして陶芸事	
必要/概ね必要/ 課題あり		全部 一部	援の面から事業の実施は必要で	ある。
(2)事務事業の有効	性(期待	∳する効果が得ら∤	いたか)	
概ね有効	<mark>状況</mark> 達		管理体制と愛好者への指導なと ベントへの出品等を通じて普及	が継続的に行われるなど、町イ 推進に努めている。
有効/概ね有効/ 課題あり		ぼ達成 回る	7 - W MAR 1, C.25 C 1 /2.	,E.Z >3 ** > ** C ** O ** O ** O ** O ** O ** O
			<u> </u>	 下げる工夫をしたか)
		判断の理由		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,
概ね効率的 ^{効率的/概ね効率}	一人	業費抑制 員削減 間短縮·作業軽減	 計画どおりの開設状況で、自主的 陶技術も向上している。	的な運営や指導体制が定着し、作
的/課題あり	■ そ			
(4)事務事業の公平	性			
公平	■受	判断の理由 益者負担がある 益者負担がない	施設の維持管理については町が	
公平/概ね公平/公平でない	受	益が一部に偏る の他	料、材料等)は利用者負担で活動	かを行っている。
B∶ほぼ計画通 C∶当初の計画	業が進ん りに進ん を達成 ⁻	んでいるが目標にi できていない。事業	を成された。今後も計画通り事業 達成していない。事業の進め方に は規模、内容、実施主体等の見直 合、休・廃止の検討が必要 等	こ改善が必要 等
自己評价	西(一次	:評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	Α		Α	
生涯学習の観点に登 策であり、陶芸推進で、計画どおり事業を	の振興・	発展を図るうえ	同左	
今後の展開方[(Action)		ļ		
継続/	現状	維持	継続/現状維持	
愛好者に沿った指導が可能であることかしつつ、自主的な活動	で安全 ら、現状	対策の維持管理 の範囲内で支援	同左	
*展開方向の区分 〇 継続/現状組	掛 対は	拡充又は縮小又は	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	· · 終了 O 休止 O 廃止

<u>整理番号</u> 11 <mark>−</mark> 38

1	事務事業の表		*	■ : 該当					
事	務事業名	社会教育	関係	団体活動領	貴補助事	業			
		担当課	名	教育振興	教育振興課 担当係名		係名	生涯教育係	
評	価 者	管理職	職名	課長		作成者	職名		係長
		官连戦	氏名	横田和	幸	TF风伯	氏名		佐藤公輔
				亥的な組織(フ 輔助を行い、対				<mark>(平成</mark> 20	
事	業の概要							国·道支 事 地方	
	2K 37 177 2							業 その	他千円
								費 一般則 事業費	
実	施方法	■直営		民間委	迁	7	その他 ()
第5期総合計画(前期)									
	第5期総合	計画(前	i期)	■登載事業	業	非登	載事業	優先度	В
	第5期総合		期) ■ 標		業か・雄武~				В
	第5期総合	政策			か・雄武~	教育·文			В
	第 5 期 総 合 業の位置付け	政 策 B 基 本 加	目 標	3 <mark>のびや</mark> 14 芸術・文	か・雄武~	教育·文			В
		政 策 基 本 が	三 標	3 <mark>のびや</mark> 14 芸術・文	か・雄武〜 化の振興 化活動の	教育·文 促進		ļ~	В
		政策 基本 単位	ョ 標 施 策 施 策 の種類	3 のびや7 14 芸術・文 2 芸術・文	か・雄武〜 化の振興 化活動の	教育·文 促進	化の振興	ļ~	В
	業の位置付け	政策 基本 が 単位が 事務事業の その他計画・ 20年度(実績	国 標 施 策 施 策 の種類 根拠等 責) 21	3 のびやだ 14 芸術・文 2 芸術・文 ■ 自治事 年度(実績)	か・雄武〜 化の振興 化活動の	教育·文 促進 法定	近化の振興 受託事務	(実績)	24年度(見込)
事	業の位置付け 実 施 年 度 国・道支出金	政策 基本 が 単位が 事務事業の その他計画・ 20年度(実績	世界 を 策 を 策 を 類 根拠等 も 21	3 のびやが 14 芸術・文 2 芸術・文 ■ 自治事 年度(実績) 千円	か・雄武~江化の振興工化活動の務	教育·文 促進 法定 (実績) 千円	近化の振興 受託事務	i~ (実績) 千円	24年度(見込) 千円
事事事	業の位置付け 実 施 年 度 国・道支出金 地 方 債	政策 基本 が 単位が 事務事業 C その他計画・ 20年度(実績 千	目 標 施 策 施 策 加種類 根拠等 責) 21 円	3 のびや。 14 芸術・文 2 芸術・文 ■ 自治事。 年度(実績) 千円	か・雄武~江化の振興工化活動の務	教育·文 促進 法定 (実績) 千円	近化の振興 受託事務	(実績) 千円	24年度(見込) 千円 千円
事	業の位置付け 実 施 年 度 国・道支出金 地 方 債 その他財源	政 策 様 本 が 単 位 が 事務事業 の その他計画・ 20年度(実統 千 千 千 千 千 千 千 千 千 千 千 千 十 十 十 十 十 十 十	言 標	3 のびやだ 14 芸術・文 2 芸術・文 ■ 自治事 年度(実績) 千円 千円	か・雄武~ 化の振興 化活動の 務 22年度	教育·文 促進 法定 (実績) 千円 千円	受託事務	E(実績)	24年度(見込) 千円 千円 千円
事 事	業の位置付け 実 施 年 度 国・道支出金 地 方 債	政策 基本 が 単位が 事務事業 C その他計画・ 20年度(実績 千	標	3 のびや。 14 芸術・文 2 芸術・文 ■ 自治事。 年度(実績) 千円	か・雄武~ 化の振興 化活動の 務 22年度	教育·文 促進 法定 (実績) 千円	受託事務 23年度	(実績) 千円	24年度(見込) 千円 千円

【誰、何が(対象)】	町民 望ましい指標(目的達成状況を最も端的 論上の成果指標)							
【抱える課題や ニーズは】	会員の減少による各団体の配下組織の 活動の停滞とその活性化支援							
		<mark>指標(指標計算式/解説)</mark> (1) 立化 連盟		及び実績値				
		① 文化連盟 子ども育成会	目標年度	平成23年度				
【どのような状態 になることを目指	団体での各種事業実施による自立と地	PTA連合会	目標値	3 団体				
したのか(意図)】	域の活性化		実 績 値	3 団体				
			達成度	100.0 %				
【その結果、どの		2	目標年度					
ような成果を実現	地域コミュニティー(地域力)の強化と町		目標値					
したいか】 ※成果=目的	民の文化意識の向上		実 績 値					
次成未一日的			達成度	%				
	内 容(どのような手段で	何を行ったか)						
団体への助成		文化連盟(320千円)、子ども育成会(230千円)、PTA連合会(100千円) (町の財務規則に基づき、適正な助成を図っている)						

3 事務事業の評価(Ch	neck)		裏
(1)事務事業の必要性(町	「民ニーズ・社会情	勢に照らして妥当か、町が担う必 障、既存事務事業との機能重複や	
必要 □ 義	養務的なもの 全部	社会教育関係団体への活動支援 性化につながるとともに、そのこと	は重要であり、団体の活動の活
課題あり (2)事務事業の有効性(期	<mark>─部</mark> きする効果が得られ	1.t-tv)	
	た目標値の達成	01213 /	
有効 <mark>状況 </mark>	重成 ほぼ達成	会員数の減少傾向の中、各団体 ている。	とも計画した事業の実施を図っ
-m ex + ()	回る		
		が得られたか、計画上のコストを	下げる工夫をしたか)
効率的	判断の理由 「業費抑制 、員削減 ・間短縮・作業軽減	各団体の活動状況に応じた、適切	な助成を行っている。
<mark>的/課題あり ■ そ</mark> (4)事務事業の公平性	-の他		
公平	判断の理由 益者負担がある 益者負担がない 益が一部に偏る の他	- 各団体とも事業の実施にあたり広 民が参加することで公平性が保た	
B:ほぼ計画通りに進 C:当初の計画を達成	んでいるが目標に できていない。事業	達成された。今後も計画通り事業を 達成していない。事業の進め方に き規模、内容、実施主体等の見直 合、休・廃止の検討が必要 等	改善が必要 等
自己評価(一)	マ評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
Α			
社会教育団体への助成によた事業展開が可能となり、は 上に寄与できる。			
今後の展開方向 (Action)			
継続/現り	於維持	· ·	Y
各団体の会員数等の減少I 財源の確保が困難な状況 通常の活動を維持するため 必要である。	下にあることから、		
*展開方向の区分 〇 継続/現状維持又は	は拡充又は縮小又は		終了 〇休止 〇廃止
		部評価を受けた場合は、その旨記	

整理番号 11 <mark>- 39</mark>

1 事務事業の表示

<u>1</u>	事務事業の表示										■ : ii	核 当
事	務事業名	社会体育	社会体育団体活動費助成事業									
		担当課	TAN-	教育振興	課	担当係名		生涯教育係		系		
評	価 者	管理職	職名		課長		<i>U</i> ⊏ ⊏	· *	職名		主査	
		官理戦	氏名		横田和幸		作成	,伯	氏名		櫻井輝久	
事	業の概要	本町の生涯スポーツ活動の中核的な役割を果たしている体育連盟・スポーツ少年団の育成やスポーツを通して地域の活性化や将来の指導者を養成するため、団体の活動に対し、助成するものである。							の活	全体計画 (平成 20 事 地方 よの その 費 一般則 事業者	i出金 債 他 才源	2.4 年度) 千円 千円 2,700 千円 2,700 千円
実	施方法	■直営			民間委託	£		その	他(CR1)
	第5期 総 合	計画(前	期)		登載事業	ŧ	非	登載	事業	優先度	I	3
		TL 6/5 [標	3	のバムム	1 // =15	41 -4-		1			
		政策	1	3	のひいつか	·雄武~	'教育	•文化	の振興	·~		
			地 策	13						·~		
事	業の位置付け	基本が		Ť		・生涯ス				.~		
事	業の位置付け	基本が	地 策 地 策	13	生涯学習	・生涯ス	ポー	ツの推		~		
事	業の位置付け	基本が単位が	 策 策 〕種類	13	生涯学習推進体制	・生涯ス	ポー	ツの推	進	.~		
事	実施年度	基 本 が 単 位 が 事務事業の その他計画・ 20年度(実績	施 策 策) 種類 根拠等	13	生涯学習 推進体制 自治事務	・生涯ス	法	定受記	進 託事務	E(実績)	24年度	〔見込〕
	実施年度 国・道支出金	基本が 単位が 事務事業の その他計画・ 20年度(実績	施 策	13	生涯学習推進体制 自治事務 (実績) 千円	間・生涯ス 川の強化	、ポー、 法 (実績 千	定受調	進 託事務	E(実績) 千円	24年度	千円
	実施年度 国·道支出金 地方債	基本が 単位が 事務事業の その他計画・ 20年度(実績 千	地 策 策 章 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数	13	生涯学習 推進体制 自治事務 (実績) 千円 千円	間・生涯ス 川の強化	ポー、 法 (実績 千	定受調の推	進 託事務	E(実績) 千円 千円	24年度	千円
事事業費	実施年度 国・道支出金	基本が 単位が 事務事業の その他計画・ 20年度(実績	を 策 を を 策 を を を を を を を を を を を を を	13 1 1	生涯学習推進体制 自治事務 (実績) 千円	で 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	ポー、 法 (実績 千	定受調の推	选 託事務 23年度	E(実績) 千円		千円

【誰、何が(対象)】	町民(スポーツ団体)	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)				
【抱える課題や ニーズは】	┃ ┃ 町民のスポーツ離れ等による加盟単位 ┃ 協会や会員の減少及び活動の低下。	現加盟団体の維持				
	協会や会員の減少及び活動の低下。	指標(指標計算式/解説) 目標値及び実績値				
		<mark>¹ 体育連盟16協会 <mark>目標年度</mark> 平成23年度</mark>				
【どのような状態 になることを目指	町民の単位協会に対する理解を深め、 加入を促進させるとともに、スポーツ活動	<mark>目 標 値</mark> 16 協会				
したのか(意図)】	への積極的な参加を目指す。	· <mark>実 績 値</mark> 16 協会				
		達成度 100.0 %				
【その結果、どの		②スポーツ少年団4団 目標年度 平成23年度				
ような成果を実現	指導者養成を行い、スポーツの普及を基					
したいか】 ※成果=目的	に地域の活性化を図る。	<mark>実 績 値</mark> 4 団体				
次成朱一日的		達 成 度 100 %				
	内 容(どのような手段で	何を行ったか)				
体育連盟、スポー ツ少年団への補 助	予算・決算・実施事業等の実績報告書を 体育連盟400千円、スポーツ少年団140千					

	T		裏
3 事務事業の評 (1)事務事業の必要	要性(町民ニーズ・社会情勢	勢に照らして妥当か、町が担 う必 勢	
	を実施しない場合の支障	き、既存事務事業との機能重複や	見直しによる対応可能性)
必要 必要/概ね必要/ 課題あり	■ 義務的なもの ■ 全部 ■ 一部	本町の生涯スポーツを推進する基通じ町民の交流を深める役割を見成することも目的としている。またこれら団体を育成・支援することが	ltしており、将来の指導者を養 、町の活性化にもつながるため、
	性(期待する効果が得られ	. <i>ナ</i> -か)	
(2) 7 30 7 7 (2) 7 70	設定した目標値の達成	1	
有効	<mark>状況</mark> _■」達成	連盟600名、スポーツ少年団100	
有効/概ね有効/ 課題あり	ほぼ達成 下回る	り、町内外の各種大会へも積極	的に取り組んでいる。
(3)事務事業の効率	性(コストに見合った効果が	が得られたか、計画上のコストを ⁻	下げる工夫をしたか)
<u> </u>	判断の理由		
効率的	□ 事業費抑制 □ 人員削減 時間短縮・作業軽減	各団体の事業に対し適切な活動	費の助成を行っている。
的/課題あり	●その他		
(4)事務事業の公平			
—	判断の理由		
公平	□ 受益者負担がある □ 受益者負担がない	いては広く町民の参加を受け入れ	こおり、また、各種団体の事業につ ぃていることから公平性は保たれ
公平/概ね公平/ 公平でない	受益が一部に偏るその他	ている。	
B∶ほぼ計画通 C∶当初の計画	≹が進んでいる。目標が達 りに進んでいるが目標に遠 を達成できていない。事業	版された。今後も計画通り事業を 産成していない。事業の進め方に 規模、内容、実施主体等の見直し 、休・廃止の検討が必要 等	改善が必要 等
自己評価	価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	Α		
本町のスポーツ活動いる団体への補助はるうえで重要である。	の中心的役割を果たして 、生涯スポーツを推進す		
今後の展開方「 (Action)	in the second se		
継続/		<u> </u>	
スポーツは、社会の に、人と人、地域間の 効な手段である。また	活性化を促進させるととも)交流や親睦を深める有 こ、子どもにとり協調性や る学習の場でもあり、今後		
*展開方向の区分 〇 継続/現状維	[持又は拡充又は縮小又は 編	I 統合又は内容の見直し・変更 ○	

整理番号 11 <mark>- 40</mark>

_1	事務事業の表	示								*	■ : 該当
事	務事業名	スポーツ	大会推	進	事業						
		担当課名	3	孝	教育振興	課	ŧ	担当係	名		生涯教育係
評	価 者	管理職	職名		課長		<i>U</i> = 1	成者	職名		主査
		官垤삓	氏名		横田和幸	ŧ	TF	八 日	氏名		櫻井輝久
事	業の概要	町民の健康系域、世代間の する。								全体計画 (平成 20 事・道支事 地方 業 その 費 一般則 事業費	社会 千円 債 千円 他 千円 財源 2,050 千円
実	施方法	直営			民間委託	ŧ		その	D他 ()
	第5期 総 合	·計画(前	期)		登載事業	ŧ		非登載	事業	優先度	В
	第5期総合	計画(前 政策 目		3	登載事業のびやか						В
	第5期総合		標	_	のびやか	·雄武~	~教育	育∙文化	の振興		В
事	第 5 期 総 合 業の位置付け	政策	標面策	3	のびやか	・雄武〜	・教育	育・文化	の振興		В
事		政 策 E 基 本 が	想 概 版 策	3	のびやか 生涯学習	ヽ・雄武〜 g・生涯ス ポーツ活	教育 水ポー 動の	育・文化 −ツの抽 O推進	の振興		В
事	業の位置付け	政 策 E 基 本 が 単 位 が 事務事業の その他計画・	標 版 策 版 策 D 種類 根拠等	3 13 2	のびやか 生涯学習 学習・スス 自治事務	v·雄武〜 習·生涯ス ポーツ活 S	・教育 スポー 動の	育・文化 一ツの打 り推進 法定受	この振興 推進 託事務	~	
事	業の位置付け	政 策 目 基 本 が 単 位 が 事務事業の その他計画・ 20年度(実績	標	3 13 2	のびやか 生涯学習 学習・スプロ治事務	ヽ・雄武〜 g・生涯ス ポーツ活	~教育 (ポー 動の ()	育・文化 ーツの拍 り推進 法定受	この振興 推進 託事務	~ (実績)	24年度(見込)
	業の位置付け 実 施 年 度 国・道支出金	政 策 目 基 本 が 単 位 が 事務事業の その他計画・ 20年度(実績	# # # # # # # # # # # # # # # # # # #	3 13 2	のびやか 生涯学習 学習・ス 自治事務 (実績) 千円	v·雄武〜 習·生涯ス ポーツ活 S	・教育 、ポー 動の 度(実	今·文化 一ツの拍 り推進 法定受 続 (着)	この振興 推進 託事務	~ (実績) 千円	24年度(見込) 千円
- 事業	業の位置付け 実 施 年 度 国・道支出金 地 方 債	政 策 目 基 本 が 単 位 が 事務事業の その他計画・ 20年度(実績	振 策 策 策 	3 13 2	のびやか 生涯学習 学習・スプロ治事務	v·雄武〜 習·生涯ス ポーツ活 S	・教育 スポー 動の (実)	今·文化 一ツの拍) 注定受 法定受 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	この振興 推進 託事務	~ (実績) 千円 千円	24年度(見込)
	業の位置付け 実 施 年 度 国・道支出金	政 策 目 基 本 が 単 位 が 事務事業の その他計画・ 20年度(実績 千下	振 版 策 D 種類 根拠等 T 21		のびやか 生涯学習 学習・スス 自治事務 (実績) 千円 千円	・雄武〜 間・生涯スポーツ活 パーツ活 8 22年月	・教育 スポー 動の (実)	育・文化 一ツの打 り推進 法定受 (積) 千円 千円	この振興 推進 託事務 23年度	~ (実績) 千円	24年度(見込) 千円 千円

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成 論上の成果指標)	状況を最も	端的に表す理
【抱える課題や ニーズは】	大会の参加者が年々減少しており、参加 促進が課題である。			
= X161	化产产	指標(指標計算式/解説)	目標値	及び実績値
		① 大会参加者	目標年度	平成23年度
【どのような状態 になることを目指	大会参加をきっかけとした、各団体・グ		目標値	600 人
したのか(意図)】	ループでの自主開催。		実 績 値	453 人
			達成度	75.5 %
【その結果、どの		2	目標年度	
ような成果を実現	仲間づくりや各世代間の交流を深めると		目標値	
したいか 】 ※成果=目的	ともに、自ら計画・実践を行う。		実 績 値	
次成未一日的			達成度	%
	内 容(どのような手段で	可を行ったか)		
各種スポーツ大会 の開催	町広報、新聞チラシ等による周知により参 (オムリンピック、雪合戦、自治会対抗パ-			

3 事務事業の評			裏
	要性(町民ニーズ・社会	情勢に照らして妥当か、町が担う 支障、既存事務事業との機能重複	
必要	■ 義務的なもの ■ 一		こおいてもスポーツ人口は減少してお 民の解消のため、本事業は必要であ
<mark>必要/概ね必要/</mark> 課題あり	<u>全部</u> 一部	ే	
(2)事務事業の有効	性(期待する効果が得	られたか)	
有効	設定した目標値の達成 状況 達成 ■ ほぼ達成		とにより、幅広い年齢層の参加者が
課題あり	下回る		
(3)事務事業の効率		果が得られたか、計画上のコスト	を下げる工夫をしたか)
効率的	判断の理由 ■ 事業費抑制 人員削減 時間短縮・作業軽減	による関催かど 効率的か事業	N限で行っており、また参加費の徴収 業運営を行っている。
的/課題あり	その他		
(4)事務事業の公平	性		
公平/概ね公平/公平でない	判断の理由 □ 受益者負担がある □ 受益者負担がない □ 受益が一部に偏る その他	ハ 対象は一般可氏であるり、広 たことから 公平性は保たれて	〈町民に呼びかけ、参加者促進を行っ こいる。
B:ほぼ計画通 C:当初の計画	業が進んでいる。目標が 到に進んでいるが目標 「を達成できていない。	が達成された。今後も計画通り事業 に達成していない。事業の進め方 事業規模、内容、実施主体等の見 統合、休・廃止の検討が必要	で改善が必要 等
自己評	価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	Α		
町民の期待度が高い 多くの参加者を確保	いプログラム設定を行い Rしている。		
今後の展開方 (Action)	n		
継続/	/現状維持		
な生活を過ごす上か	情神と身体を養成し、心豊からも必要不可欠なもの。 スポーツ機会の提供は、	であ	

*展開方向の区分 〇 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 〇 終了 〇 休止 〇 廃止

整理番号 11 <mark>- 4</mark>1

1	事務事業の表	示								*	. :	該当
事	務事業名	雄武町ス	ポーツ	/振	興事業							
		担当課名	3	教育振興課			担当係名		生涯教育係			
評	価 者	管理職 職名			課長		作成者		職名	主査		
		官连戦	氏名		横田和雪	ŧ	TF	. 风 日	氏名		櫻井輝	久
		各種スポーツ 経費の一部を					個人	、又は	団体へ	全体計画 (平成 20 国·道支		24 年度)
事	業の概要									事 地方	債	千円 千円 千円
										費 一般則 事業費		2,000 千円 2,000 千円
実	施方法	直営			民間委託	ŧ		そ0	D他 ()
	第5期総合	計画(前	期)		登載事業	Ě		非登載	事業	優先度		В
		政策目	標	3	のびやか	ハ•雄武∕	~教	育∙文化	この振興	ļ ~		
		基本施	策	13	生涯学習	習•生涯2	スポ・	ーツのŧ	推進			
事	業の位置付け	単 位 旅	策	2	学習・ス	ポーツ活	5動の	の推進				
		事務事業の	種類	頁 ■ 自治事務				法定受	託事務			
		その他計画・	根拠等									
	実施年度	20年度(実績		年度	(実績)	22年	度(実		23年度	医(実績)	24年	度(見込)
串	国·道支出金 地 方 債	千日			千円			千円		千円		千円
事業	その他財源	千日			千円			千円		千円		千円
費	雄武町負担額(一般財源)	610 T F			20 千円		54	千円	1	04 千円		400 千円
	合 計	610 千円	9		20 千円		54	千円	1	04 千円		400 千円

【誰、何が(対象)】	町民(スポーツ団体)	望ましい指標(目的達成 論上の成果指標)	状況を最も	端的に表す理			
【抱える課題や	個人・団体への大会参加経費の軽減に	大会出場の個人・団体					
ニーズは】	よる参加の促進。	指標(指標計算式/解説)	目標値	及び実績値			
		①出場種目 個人	目標年度	平成23年度			
【どのような状態 になることを目指	大会参加による競技意識の喚起及び積		目標値	1 種目			
したのか(意図)】	極的な上位大会への参加。		実 績 値	2 種目			
			達成度	200.0 %			
【その結果、どの		②出場種目 団体	目標年度	平成23年度			
ような成果を実現	充実したスポーツ活動の推進、競技意		目標値	1 団体			
したいか 】 ※成果=目的	識の高まりを目的とする。		実 績 値	0 団体			
<u> </u>			達成度	0 %			
	内 容(どのような手段で	何を行ったか)					
個人・団体への出 場経費の補助	全国・全道大会へ出場する個人からの申 (個人:空手、パークゴルフ)	請書提出後、要綱に基づ	づき審査を行	い助成した。			

3 事務事業の評 (1)事務事業の必要	要性(町民ニーズ・社会情報	学に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業 章、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)
必要	義務的なもの	全国・全道大会は、交通費等により個人負担は高額となる。これらの大会に出場することは、出場者の競技レベルの向上につながり、
必要/概ね必要/ 課題あり	全部一部	本町のPR効果も充分に果たすものであることから、一部の助成は必要である。
(2)事務事業の有効	性(期待する効果が得られ	uたか)

有効	設定した目標値の達成 状況	並せ来。の各担を収減せてこしたし、種類的な名物が図され
有効/概ね有効/ 課題あり	■ 達成 ほぼ達成 下回る	競技者への負担を軽減することにより、積極的な参加が図られ、 競技スポーツの向上につながった。

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

		判断の理由	
	効率的	人具削減	高いレベルの大会参加を補助することは、当町のスポーツ環境向 上に寄与しており、十分効果を得ている。
刻的	率的/概ね効率 /課題あり	時間短縮・作業軽減 ■ その他	

(4)事務事業の公平性

	判断の理由	
公平		事業趣旨に沿い、大会成績を基準に補助していることから、公平性 は保たれている。
公平/概ね公平/	受益が一部に偏る	16体/これにCUで。
公平でない	■その他	

4 総合評価【A~D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等

D:事業効果が表れていない。事業の統合	合、休・廃止の検討が必要 🦠	<u>等</u>		
自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	田	J長評価(三次	(評価)
Α				
本事業は、本町の競技スポーツの向上と参加 促進につながり、特に児童・生徒の競技意識 の高揚につながった。				
今後の展開方向 (Action)				
継続/現状維持	•		•	
スポーツ活動の推進とともに、レベルの高い競技者の育成、将来の指導者の養成といった観点から、今後も継続が必要である。				
* 展開方向の区分 〇 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は	統合又は内容の見直し・変更	〇 終了	〇 休止	〇 廃止
5 その他特記事項(アンケート調査など外部	部評価を受けた場合は、その	言記入)		

○ 権税/ 現代権行文は拡九文は相小文は机台文は内谷の見直し 変更 ○ 於 〕	〇 怀正	し 廃止
5 その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)		

整理番号 11 <mark>- 42</mark>

1 事務事業の表示

_1	事務事業の表	示								*	■ : 諺	核当
事	務事業名	スポーツ教!	室推進	事	業							
		担当課名	各	孝	教育振興	課	ž .	担当係	名	:	生涯教育係	系
評 価 者		管理職	職名		課長		作成者		職名	主査		
		自垤啾	氏名		横田和幸	Ē	TFJ	八	氏名		櫻井輝久	•
事	業の概要	町民や学校i スポーツに新 ため、各種ス	しむ機:	会や的	建康を維持	寺する学 [:]				全体計画 (平成 2020事・道支 事 費 一般則 事業費	出金 債 他	4 年度) 千円 千円 千円 1,200 千円
実	施方法	■直営			民間委託	ŧ		20	の他()
	第5期 総 合	計画(前	期)		登載事業	ŧ	-	非登載	事業	優先度	Е	3
	第5期総合	計画(前 政策		3	登載事業のびやか						E	3
	第5期総合		標	3		·雄武~	教育	育∙文化	上の振興		Е	3
	第 5 期 総 合 業の位置付け	政策	想 標 策	3	のびやか	・雄武〜	教育ペポー	育・文化 −ツの‡	上の振興		E	3
		政 策 E 基 本 が	目 標 施 策	3	のびやか生涯学習	ヽ・雄武〜 g・生涯ス ポーツ活	・教育 ペポー 動の	育・文化 −ツの‡ ○推進	上の振興		E	3
	業の位置付け	政策 基本 が 単位	目 標 施 策 施 策 2	3 13 2	のびやか 生涯学習 学習・ス	ヽ・雄武〜 g・生涯ス ポーツ活	・教育 ペポー 動の	育・文化 −ツの‡ ○推進	との振興 推進		E	3
	業の位置付け	政 策 E 基 本 が 単 位 が 事務事業の その他計画・ 20年度(実績	世 版 版 版 策 D 種類 根拠等	3 13 2	のびやか 生涯学習・スス 自治事務	ヽ・雄武〜 g・生涯ス ポーツ活	・教育 (ポー 動の (大) (大)	育・文化 ーツの打 り推進 法定受 績)	との振興 推進 託事務	(実績)		(見込)
事	業の位置付け 実 施 年 度 国・道支出金	政 策 E 基 本 が 単 位 が 事務事業の その他計画・ 20年度(実績	e	3 13 2	のびやか 生涯学習 学習・ス 自治事務 (実績) 千円	ヽ・雄武〜 習・生涯ス ポーツ活 ⁸	・教育 (ポー 動の) (実)	育・文化 -ツの打)推進 法定受 績) ┃ 千円	との振興 推進 託事務	(実績) 千円		E(見込) 千円
事	業の位置付け 実 施 年 度 国・道支出金 地 方 債	政 策 E 基 本 が 単 位 が 事務事業の その他計画・ 20年度(実績 干 I	e 標 を 策 の種類 根拠等 10 21	3 13 2 ■ 年度	のびやか 生涯学習・ス 自治事務 (実績) 千円 千円	ヽ・雄武〜 習・生涯ス ポーツ活 ⁸	・教育 (ポー 動の (実)	育・文化 ーツの‡)推進 法定受 <u>績)</u> 千円	との振興 推進 託事務	芝(実績) 千円 千円		E(見込) 千円 千円
	業の位置付け 実 施 年 度 国・道支出金	政 策 E 基 本 が 単 位 が 事務事業の その他計画・ 20年度(実績	世 を を を を を を 数 を を 数 を を 数 を を 数 を を 数 を を 数 の を を も の も の も の も の も の も の も の も の の の の の の の の の の の の の	3 13 2 ■ 年度	のびやか 生涯学習 学習・ス 自治事務 (実績) 千円	・雄武〜 間・生涯スポーツ活 8 22年月	・教育 (ポー 動の (実)	育・文化 一ツの打 り推進 法定受 (積) (千円 千円 千円	比の振興 推進 記事務 23年度	(実績) 千円	24年度	E(見込) 千円

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成 論上の成果指標)	状況を最も	端的に表す理					
【抱える課題や ニーズは】	 参加者の固定・減少化を解消していくた めの、スポーツ参加の促進。								
	のの、人が一つ参加の促進。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値						
		<mark>①</mark> 参加者	目標年度	平成23年度					
【どのような状態 になることを目指	子どもから大人まで一人でも多くスポー		目標値	250 人					
したのか(意図)】	ツに親しむことを目指す。		実 績 値	249 人					
			達成度	99.6 %					
【その結果、どの	 運動の楽しさ、爽やかさを実感すること	2	目標年度						
ような成果を実現	によるスポーツ意欲を促進させるととも		目標値						
したいか 】 ※成果=目的	│に、、運動後の身体の自己管理技術を身 │につける。		実 績 値						
次 <u>成</u> 来一日的	につける。		達成度	%					
	内 容(どのような手段で	何を行ったか)							
各種教室の開催	町広報、学校、新聞チラシ等による周知を 力を得て開催。(わんぱく道場、AED、ジ								

	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		裏
3 事務事業の評 (1)事務事業の必要		勢に照らして妥当か、町が担う必	要があるか。当該事務事業
		章、既存事務事業との機能重複や	
必要 <mark>必要/概ね必要/</mark>	■義務的なもの 全部		養会が減少しており、生涯スポーツ Dスポーツ活動の参加を促進させ
課題あり	一部		
(2)事務事業の有効	性(期待する効果が得られ	いたか)	
有効	設定した目標値の達成 状況 ■ 達成	幅広い年齢層の活動が促進され 行うなど、町民ニーズに沿ったフ	ι、事業終了後も自主的に活動を パログラム提供ができた。
有効/概ね有効/ 課題あり	ほぼ達成 下回る	77702(1770	
(3)事務事業の効率		が得られたか、計画上のコストを「	下げる工夫をしたか)
効率的 効率的 効率的 / 課題あり	判断の理由 事業費抑制 人員削減 時間短縮・作業軽減 その他	町内関係者が指導することによりた。また、外部指導者を招へいしてで行っていることから、効率的であ	た場合においても、比較的低予算
(4)事務事業の公平	性		
公平/概ね公平/公平でない	判断の理由	- 一般町民を対象としており、広く町 から、公平性は保たれている。	J民に参加を呼びかけていること
B∶ほぼ計画通 C∶当初の計画	・ ・D】 業が進んでいる。目標が達 りに進んでいるが目標に追	が成された。今後も計画通り事業を 達成していない。事業の進め方に 規模、内容、実施主体等の見直し 合、休・廃止の検討が必要 等	改善が必要 等
自己評	価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	Α		
1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	くりに寄与するためには必 民のニーズを把握しながら		
今後の展開方I (Action)	i i		
継続/	/現状維持	· ·	<u> </u>
町民のスポーツ環境 する必要がある。 特にブルームボール	での向上には、事業を継続 いは町の奨励スポーツであ せるために、指導者の養成		
* 展開方向の区分 〇 継続/現状約	を持ては拡充又は縮小又は	<u>┃</u> 統合又は内容の見直し・変更 〇	<u> </u>

整理番号 11 <mark>- 43</mark>

1 事務事業の表示

1	事務事業の表	示									*	. :	該当	当
事	務事業名	スポーツ	等合宿	招	致調査	研究事	丰業	;						
		担当課	ž	4	教育振興	課		担当	係名	,		生涯教	育係	
評	価 者	管理職	職名		課長		<i>l/</i> =	成者	٨	職名		主	查	
		官垤戦	氏名		横田和雪	Ē	TF	八七	1	氏名		櫻井淵	暉久	
事	業の概要	スポーツ人口 低くなってき [・] つながるスポ	ており、マ	汝善.	方策として	゙スポー	ツ意	識の	刺激	等に	全体計画 (平成 22 国・道支事 地方 その 再 一般則 事業費	出金 債 他 才源	24	年度) 千円 千円 千円 千円
実	施 方 法	直営			民間委託	ŧ		-	その	他()
	第5期総合	·計画(前	期)		登載事業	ŧ		非登	養載事	事業	優先度		С	
		政策	標	3	のびやか	ヽ•雄武⁄	~教	育・ブ	文化の	の振興	ļ~			
		基本が	策	13	生涯学習	習•生涯2	スポ-	ーツ	の推	進				
事	業の位置付け	単 位 が	策	2	学習・ス	ポーツ活	5動€	の推済	進					
		事務事業0)種類		自治事務	务		法定	受討	托事務				
		その他計画・	根拠等											
	実 施 年 度	20年度(実績	〔21	年度	(実績)	22年	度(実	[績)		23年度	医(実績)	24	年度()	見込)
	国·道支出金	千日	円		千円			千円	}		千円			千円
事業	地 方 債	千日			千円			千円	_		千円			千円
業費	その他財源	千日	円		千円			千円	l		千円			千円
复	雄武町負担額(一般財源)	千日	ग		千円			千円]		千円			千円
	合 計	千日	-		千円			千円			千円			千円

【誰、何が(対象)】	大学、実業団等のスポーツチーム	望ましい指標(目的達成 論上の成果指標)	状況を最も	端的に表す理
【抱える課題やニーズは】	スポーツ人口の減少及びスポーツ団体 による事業実施の低迷。	調査研究		
	による事業失心の政体。	指標(指標計算式/解説)	目標値	直及び実績値
		<mark>①</mark> 調査研究	目標年度	平成23年度
【どのような状態 になることを目指	スポーツ等合宿招致に係る事業化可能		目標値	1 式
したのか(意図)】	性の調査研究。		実 績 値	1 式
			達成度	100.0 %
【その結果、どの		2	目標年度	
ような成果を実現	スポーツ等合宿招致に係る事業化の可		目標値	
したいか】 ※成果=目的	能性についての方向性の確立。		実 績 値	
次/ 以 未一日的			達成度	%
	内 容(どのような手段で	何を行ったか)		
調査	先進地等における調査及び資料収集。			

3 事務事業の評価(Chec) -		裏
(1)事務事業の必要性(町民	ニーズ・社会情勢	。 は、既存事務事業との機能重複	
		本町のスポーツ推進及び新たた 宿招致の調査は必要である。	な方策の可能性となるスポーツ等合
(2)事務事業の有効性(期待す		たか)	
有効 おいます は は は は は は は は は は は は は は は は は は は	目標値の達成産成産成産		ームの招致に向けて調査を実施 ☆が出来た。
課題あり 下回 (3)事務事業の効率性(コスト)	_	ぶ得されたか、計画 トのコフト:	た下げる工士むしたか)
	S見合つに効果が 断の理由	い付られたか、計画上のコスト	を下げる工夫をしたか)
効率的	費抑制 削減 ^{豆縮・作業軽減}	コストをかけずに調査を実施す	ることで、効率性が確保された。
(4)事務事業の公平性			
公平	が一部に偏る	調査研究が目的であるため、公	S平性は保たれた。
B:ほぼ計画通りに進んて	いるが目標に達 ていない。事業	成された。今後も計画通り事業 成していない。事業の進め方 規模、内容、実施主体等の見 、休・廃止の検討が必要 等	に改善が必要 等
自己評価(一次評	価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
В		В	
インターネット等により各市町村 況の調査等を行った。	寸の取り組み状	同左	
今後の展開方向 (Action)	•		
継続/現状総	推持	継続/現状維持	
スポーツ等合宿招致の方向性 ため、今後も継続的な調査を実 な検討を進める必要がある。		同左	
*展開方向の区分 〇 継続/現状維持又は拡	充又は縮小又は紛	た合又は内容の見直し・変更	〇終了 〇休止 〇廃止
5 その他特記事項(アンケー	ート調査など外部	『評価を受けた場合は、その旨	(記入)

整理番号 11 - 44

1	事務事業の表	示								*	■ : 該当		
事	務事業名	スポーツ	イベン	卜参	加助成	金							
		担当課名	3	ä	教育振興	課		担当係	名	:	生涯教育係		
評	価 者	管理職	職名		課長		作成者		職名		主査		
			氏名		横田和雪				氏名	櫻井輝久			
事	業の概要	な育成を図る 助成金の対象	ことを [をとなる クリンク	目的! スポ を想	ポーツイベントはインターナショナルオ ・想定しており、町内小中高等学校の児						/単年度のみ 年度~ 24 年度) 出金 千円 債 千円 他 千円 が 650 千円 計 650 千円		
実	施方法	直営			民間委託	ŧ		20	の他()		
	第5期 総 合	計画(前	期)		登載事業	ŧ		非登載	事業	優先度	В		
		政策	標	3	のびやか	∿雄武	~教	育∙文化	との振興	ļ~			
		基本が	策	13	生涯学習	習・生涯	スポ・	一ツの扌	推進				
事	業の位置付け	単位が	策	2	学習・ス	ポーツシ	舌動(の推進					
		事務事業の	種類		自治事務	务		法定受	:託事務				
		その他計画・	根拠等										
	実施年度	20年度(実績	21	年度	(実績)	22年	度(実	€績)	23年度	医(実績)	24年度(見込)		
	国·道支出金	千F			千円			千円		千円	千円		
事業	地方債	₹F	-		千円			千円		千円	千円		
表費	その他財源 雄武町負担額	千日	4		千円			千円		千円	千円		
^	(一般財源)	千日			千円			千円		80 千円	250 <mark>千円</mark>		
	合 計	千日	9		千円			千円	1	80 千円	250 千円		

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成 論上の成果指標)	状況を最も	端的に表す理			
【抱える課題やニーズは】	事業参加者の減少。	申請者数					
- 7127		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値				
		<mark>①</mark> 申請者数	目標年度	平成23年度			
【どのような状態 になることを目指	参加費の一部を助成し、参加の負担を		目標値	40 名			
したのか(意図)】	軽減する。		実 績 値	18 名			
			達成度	45.0 %			
【その結果、どの		2	目標年度				
ような成果を実現	参加者の増加による、事業の発展と町		目標値				
したいか】 ※成果=目的	の活性化を目的とする。		実 績 値				
然成果一日时			達成度	%			
	内 容(どのような手段で	何を行ったか)					
オホーツクサイク リング参加費助成	広報等で助成周知を行い、参加者から申 の助成金振込を行った。(助成額10,000P		出を受けた行	後、指定口座へ			

3 事務事業の評	(年(Obsels)		惠
	要性(町民ニーズ・社会情	勢に照らして妥当か、町が担う 章、既存事務事業との機能重複	
必要 必要/概ね必要/ 課題あり	■ 義務的なもの 全部 一部		`の出発地という重要な役割を担って である。また、児童・生徒の貴重なス 意味でも助成は必要である。
(2)事務事業の有効	性(期待する効果が得られ	· ったか)	
概ね有効 ^{有効/概ね有効/} 課題あり	設定した目標値の達成 <mark>状況</mark> 達成 ほぼ達成 ■ 下回る	助成制度の有効な利用が見	られ、効果が得られた。
(3)事務事業の効率	性(コストに見合った効果	が得られたか、計画上のコスト	を下げる工夫をしたか)
効率的 効率的/概ね効率 的/課題あり	判断の理由 事業費抑制 人員削減 時間短縮・作業軽減 ■ その他	対象を町内在住の児童生徒と 沿いながら効率的に助成を行	絞っていることから、町民のニーズに うことができた。
(4)事務事業の公平	性		
公平 公平/概ね公平/ 公平でない	判断の理由	町内すべての児童生徒を対象 たれている。	としている事業であり、公平性は保
B∶ほぼ計画通 C∶当初の計画	業が進んでいる。目標が遠 りに進んでいるが目標に を達成できていない。事業	達成された。今後も計画通り事業 達成していない。事業の進め方 美規模、内容、実施主体等の見 合、休・廃止の検討が必要	「に改善が必要 等
自己評	価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	Α		
オホーツクサイクリン が図られた。	い グに参加し易い環境作り		
今後の展開方 (Action)	向		
継続/	万 現状維持	*	
当町でのオホーツク	サイクリングの参加促進を成を継続する必要がある。		
*展開方向の区分 〇 継続/現状約	性持又は拡充又は縮小又は	▲ 統合又は内容の見直し・変更	○ 終了○ 休止○ 廃止

整理番号 11 - 45

1	事務事業の表	示								*	. :	該当	
事	務事業名	社会体育	施設	委託	業務事	業							
		担当課名	2	i	教育振興	課		担当係	名		生涯教育	係	
評	価 者	在职啦	職名		課長		1/-	- 	職名		主査		
		管理職	氏名		横田和雪	ŧ	115	成者	氏名	櫻井輝久			
		本町の生涯ス	スポーツ	の推	進に寄与	すべく	E要な	体育施	設の	全体計画			
		適正な管理を	r氏间身	(百等	計に委託す	るもの	じめる	5.		(平成 20 国·道支		24 年度)	
事	業の概要									事地方		<u>千円</u> 千円	
7	未 07 100 安									業その		千円	
										費一般則	才源	39,770 千円	
										事業費	計	39,770 千円	
実	施方法	直営			民間委託	ŧ		その	他()	
	第5期総合	·計画(前	期)		登載事業	Ě		非登載	事業	優先度		В	
		政策	標	3	のびやた	ハ・雄武	~教	育∙文化	の振興	ļ ~			
		基本が	逝 策	13	生涯学習	♂•生涯.	スポ・	一ツの推	進				
事	業の位置付け	単 位 が	憲 策	5	施設∙備	品の有	効活	用					
		事務事業0)種類		自治事務	务		法定受	託事務	j			
		その他計画・	根拠等		•								
	実 施 年 度	20年度(実績	1 2	年度	(実績)	22年	度(実	[績]	23年度	度(実績)	24年	度(見込)	
	国·道支出金	千日	၂		千円			千円		千円		千円	
事業	地 方 債	千日	円		千円			千円		千円		千円	
業費	その他財源	千日	円		千円			千円		千円		千円	
貧	雄武町負担額(一般財源)	8,707 <mark>千</mark> 日	၂	9,	753 千円	6	,536	千円	6,5	544 千円	8,	680 千円	
	合 計	8,707 千日	円	9,	753 千円	6	,536	千円	6,5	644 千円	8,	680 千円	

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理 論上の成果指標)
【抱える課題や ニーズは】	施設を良好な状態に維持し管理を行う。	年間利用者数
— X164		指標(指標計算式/解説) 目標値及び実績値
		<mark>① 各スポーツ施設の年間利用</mark> 目標年度 平成23年度
【どのような状態 になることを目指	利用者数の増加と快適な施設利用及び	①風の丘スキー場(2,649) ②宮の森パークゴルフ場 目標値 10,000 人
したのか(意図)】	経費の削減。	③農村広場(1,750) 実積値 4,399 人 ④ブルームボールコート
		※②·④不詳 達成度 44.0 %
【その結果、どの		② 目標年度
ような成果を実現	本町のスポーツ活動の活性化と健康増 進を図る。職員の労務管理の軽減。体育	目標値
したいか 】 ※成果=目的	施設運営費のコスト削減。	実 績 値
次成朱一日的		達 成 度 %
	内 容(どのような手段で	可を行ったか)
各体育施設の管 理委託	指名競争入札により業者を決定し、各維 パークゴルフ場、農村広場、ブルームボー	持管理業者に委託した。(風の丘スキー場、宮の森 -ルコート)

			裏
3 事務事業の評 (1)事務事業の必要	要性(町民ニーズ・社会情報	勢に照らして妥当か、町が担う必 章、既存事務事業との機能重複や	
必要 必要/概ね必要/ 課題あり	■ 義務的なもの ■ 全部 一部	各施設において不特定多数の利 務が発生するため、管理人の常場	用があり、受付・備品貸出等の業
(2)事務事業の有効	性(期待する効果が得られ	· たか)	
有効 有効/概ね有効/ 課題あり	設定した目標値の達成 <mark>状況</mark> ■ 達成 はぼ達成 下回る	施設の安全管理には充分配慮し いることから、利用者から高く評	
(3)事務事業の効率		▲ が得られたか、計画上のコストを [・]	下げる工夫をしたか)
効率的 効率的/概ね効率 的/課題あり	判断の理由 事業費抑制 人員削減 時間短縮・作業軽減 ■ その他	教育施設管理を一本化することにる。	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
(4)事務事業の公平	性		
公平/概ね公平/公平でない	判断の理由	町民を利用対象とする施設及び(性は保たれている。	帯品の維持管理業務であり、公平
B∶ほぼ計画通 C∶当初の計画	業が進んでいる。目標が這 りに進んでいるが目標に近 を達成できていない。事業	を を を を は していない。 事業の進め方に は は は 、内容、実施主体等の見直 な、休・廃止の検討が必要 等	改善が必要 等
自己評	価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	Α		
利用者の利便性が「 援ができた。	句上し、学校教育活動の支		
今後の展開方 (Action)	in the second se		
継続/	/現状維持	<u> </u>	Y
町民ニーズに沿ったとから、施設管理はある。	-維持管理が可能であるこ 継続して行っていく必要が		
*展開方向の区分 〇 継続/現状約	推持又は拡充又は縮小又は	統合又は内容の見直し・変更 〇	終了 〇休止 〇廃止

整理番号 11 <mark>- 46</mark>

_1	事務事業の表	示								*	. : .	該当
事	務事業名	農村広場	改修	非	ţ							
		担当課名	名	ž	教育振興	課	-	担当係	名	:	生涯教育	係
評	価 者	在THP	職名		課長		作成者		職名	主査		
		管理職	氏名		横田和幸	Ē	1°F	八 白	氏名	櫻井輝久		
		農村広場(野するものであ		維持	寺管理する	らうえで、	計画	前的に更	新改修	<mark>(平成</mark> 22		23 年度)
事	業の概要									国・道支事地方業その	债 他	千円 千円
										費 一般則 事業費		2,692 千円 2,692 千円
実	施方法	■直営			民間委託	£		70	の他()
	第5期 総合	計画(前	期)		登載事業	ŧ		非登載	事業	優先度		A
	第5期 総 合	計画(前 政策		3	登載事業のびやか		11					A
	第5期総合	政策		_	のびやか	•雄武~	~教	育・文化	上の振興			A
	第5期総合業の位置付け	政 策 E 基 本 が	目 標	3	のびやか	・雄武〜	~教 スポ-	育・文化 ーツの	上の振興			A
		政 策 E 基 本 が	持	3	のびやか生涯学習	、・雄武〜 冒・生涯ス 品の有效	~ 教 i スポ- 効活」	育・文化 ーツの 用	上の振興			A
		政 策 目 基 本 が 単 位 が	1 標 他 策 他 策 D 種類	3 13 5	のびやか生涯学習施設・備	、・雄武〜 冒・生涯ス 品の有效	~ 教 i スポ- 効活」	育・文化 ーツの 用	との振興 推進			A
	業の位置付け	政 策 E 基 本 が 単 位 が 事務事業の	1 標 施 策 施 策 D 種 類 根拠等	3 13 5	のびやか生涯学習施設・備	、・雄武〜 冒・生涯ス 品の有效	~ 教i スポー 効活/	育・文化 ーツの打 用 法定受	との振興 推進 託事務			(見込)
事	業の位置付け 実 <u>施年度</u> 国・道支出金	政策 様 基本 が 単位が 事務事業の その他計画・ 20年度(実績	e	3 13 5	のびやか 生涯学習 施設・備 自治事務 (実績)	・雄武〜 間・生涯ス 品の有交	~ 教 i スポー 効活」 g (実	育・文化 ーツの打用 法定受 経績)	との振興 推進 託事務	[·~ [·実績] 千円		度(見込) 千円
事	業の位置付け 実 施 年 度 国・道支出金 地 方 債	政 策 目 基 本 が 単 位 が 事務事業の その他計画・ 20年度(実績 干 I	e	3 13 5	のびやか 生涯学習 施設・備 自治事務 (実績) 千円	・雄武〜 間・生涯ス 品の有交	~教 in スポースポース in スポース in スポー	育・文(一ツの打 用 法定受 (((((((((((((((((((との振興 推進 託事務	E (実績) 千円 千円		度(見込) 千円 千円
事 事業	業の位置付け 実 施 年 度 国・道支出金 地 方 債 その他財源	政策 様 基本 が 単位が 事務事業の その他計画・ 20年度(実績	e	3 13 5	のびやか 生涯学習 施設・備 自治事務 (実績)	・雄武〜 間・生涯ス 品の有交	~教 in スポースポース in スポース in スポー	育・文化 ーツの打用 法定受 経績)	との振興 推進 託事務	[·~ [·実績] 千円		度(見込) 千円
事	業の位置付け 実 施 年 度 国・道支出金 地 方 債	政 策 目 基 本 が 単 位 が 事務事業の その他計画・ 20年度(実績 干 I	目 標 施 策 施 策 別 種類 <mark>根 拠 等 ⑤ 21</mark> 円 円 円 円	3 13 5	のびやか 生涯学習 施設・備 自治事務 (実績) 千円	・雄武で 日・生涯フ 品の有効 8 22年原 3,9	~教 in スポースポース in スポース in スポー	育・文(一ツの打 用 法定受 () 1 1 1 1 1 1 1 1 1 	との振興 推進 記事務 23年度	E (実績) 千円 千円		度(見込) 千円 千円

【誰、何が(対象)】	農村広場(野球場)	望ましい指標(目的達成 論上の成果指標)	状況を最も	端的に表す理		
【抱える課題や	 経年劣化等により、施設の安全確保等	電気設備改修·塗装改修				
ニーズは】	に支障が生じている。	指標(指標計算式/解説)	目標値	及び実績値		
		<mark>①</mark> 電気設備改修	目標年度	平成23年度		
【どのような状態 になることを目指	施設を更新することにより、安全に利用		目標値	1 式		
したのか(意図)】	できる。		実 績 値	1 式		
			達成度	100.0 %		
【その結果、どの		②塗装改修	目標年度	平成23年度		
ような成果を実現	利用者への利便性向上と適正な維持管		目標値	1 式		
したいか 】 ※成果=目的	埋が図られる。		実績値	1 式		
次 <u>成</u> 来一日的			達成度	100 %		
	内 容(どのような手段で	何を行ったか)				
電気設備改修	 高圧引き込みケーブル取替・高圧区分開	閉器取替・照明柱引込盤	盤配管取替(指名競争入札)		
塗装改修	観客席ベンチ塗装(指名競争入札)					

3 事務事業の評	平価(Check)		裏
	要性(町民ニーズ・社会情	勢に照らして妥当か、町が担う必 章、既存事務事業との機能重複や	
必要	義務的なもの	施設の安全かつ効果的な運用を施する必要がある。	行うためには、計画的に整備を実
<mark>必要/概ね必要/</mark> 課題あり	全部一部	心 9 る必 安 ル の の。	
(2)事務事業の有効	1性(期待する効果が得られ	いたか)	
有効	設定した目標値の達成 状況 ■ 達成	施設利用者の安全が確保され、 された。	安心して利用できる体制が整備
有効/概ね有効/ 課題あり	ほぼ達成 下回る		
(3)事務事業の効率	性(コストに見合った効果:	が得られたか、計画上のコストを ⁻	下げる工夫をしたか)
効率的	判断の理由 事業費抑制 人員削減 時間短縮・作業軽減	適切な予算執行により、快適な施 計画的に老朽化の解消を図ってい	
的/課題あり	■その他		
(4)事務事業の公平			
公平 公平/概ね公平/公平でない	判断の理由	利用者の安全確保のための事業	であり、公平性は保たれている。
B∶ほぼ計画通 C∶当初の計画	業が進んでいる。目標が遠 りに進んでいるが目標に遠 īを達成できていない。事業	を成された。今後も計画通り事業を 達成していない。事業の進め方に は規模、内容、実施主体等の見直し 合、休・廃止の検討が必要 等	改善が必要 等
自己評	価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
	Α		
	向上を図るためには、施設 あり計画どおり実施ができ		
今後の展開方 (Action)	n		
	終了		
改修を終了したため)。		
*展開方向の区分 〇 継続/現状	維持又は拡充又は縮小又は	統合又は内容の見直し・変更 〇	終了 〇休止 〇廃止

整理番号 11 <mark>- 47</mark>

1	事務事業の表	示								×	= :	該当	á
事	務事業名	スポーツ	センタ	一整	と備事業	ţ							
		担当課	名	教育振興課				旦当係	名		生涯教	教育係	
評	価 者	管理職	職名		課長		<i>U</i> = 0	出来	職名		主	査	
		官理戦	氏名		横田和幸		TFA	成者	氏名		櫻井	輝久	
		スポーツセン	ターのき	老朽亻	化に伴い、	計画的に	こ更新	折整備	するも	全体計画			
		のである。								(平成 22		~ 24	年度)
事	業の概要									国·道式 事 地方			千円
7	未 の 似 女									事地方業その			千円
										費一般		5.4	495 千円
										事業			495 千円
実	施方法	■直営			民間委託	;		20	か他 ()
	第5期 総合	計画(前	期		登載事業		-	非登載	事業	優先度		В	
	第5期総合		i 期) 目 標	3	登載事業のびやか							В	
	第5期総合	政策		3 13	のびやか	•雄武~	~教育	す・文化	この振興			В	
	第 5 期 総 合 業の位置付け	政 策 E 基 本 が] 標		のびやか	・雄武〜 ・生涯ス	~教育	育・文化 −ツの扌	この振興			В	
		政 策 E 基 本 が	目標 施策	13	のびやか生涯学習	・雄武〜 『・生涯ス 品の有効	*教育スポー	育・文化 −ツの扌 用	この振興			В	
		政 策 目 基 本 が 単 位 が	ョ 標 を 策 を 策 の種類	13	のびやか生涯学習施設・備品	・雄武〜 『・生涯ス 品の有効	*教育スポー	育・文化 −ツの扌 用	この振興 作進			В	
		政 策 E 基 本 が 単 位 が 事務事業の	ョ 標 を 策 を 策 の種類 根拠等	13 5	のびやか生涯学習施設・備品	・雄武〜 『・生涯ス 品の有効	~ 教育 スポー 助活用 	育・文化 -ツの打 用 法定受	この振興性進		24	B 4年度(J	見込)
事	業の位置付け	政策 基本 単位 事務事業の その他計画・	目 標 を 策 を 策 の種類 根拠等	13 5	のびやか 生涯学習 施設・備設 自治事務	・・雄武〜 P・生涯ス 品の有交	~ 教育 スポー 助活用 <u> </u>	育・文化 -ツの打 用 法定受	この振興性進	.~	24		<mark>見込)</mark> 千円
事	業の位置付け 実 施 年 度 国・道支出金 地 方 債	政 策 E 基 本 が 単 位 が 事務事業の その他計画・ 20年度(実績	目 標 施 策 施 策 和 類 根 拠 等 責) 21	13 5	のびやか生涯学習施設・備設・備設・備設・のがある。	・・雄武〜 P・生涯ス 品の有交	・教育 スポー 助活用 度(実	育・文化 ーツの持 用 法定受	この振興性進	·~ (実績)	24		
事	業の位置付け 実 施 年 度 国・道支出金 地 方 債 その他財源	政策 様 基本 が 単位が 事務事業の その他計画・ 20年度(実績	目 標 を 策 の 種類 根拠等 も 21	13 5	のびやか 生涯学習 施設・備。 自治事務 (実績)	・・雄武〜 P・生涯ス 品の有交	・教育 スポー 防活用 (実)	育・文化 ーツの打 用 法定受 績)	この振興性進	E(実績) 千円	24		千円
	業の位置付け 実 施 年 度 国・道支出金 地 方 債	政 策 目 基 本 が 単 位 が 事務事業の その他計画・ 20年度(実績 干 I	目 標 施 策 施 策 和 類 根拠等 1 21 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円 円	13 5	のびやか 生涯学習 施設・備。 自治事務 (実績) 千円	・・雄武〜 ・生涯ス 品の有効 S 22年月	・教育 スポー 防活用 (実)	情・文化 ーツの‡ 用 法定受 <u>績)</u> 千円 千円	この振興 推進 託事務 23年度	を(実績) 千円 千円	24	4年度([千円

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成 論上の成果指標)	状況を最も	端的に表す理
【抱える課題や ニーズは】	経年劣化による、利便性・衛生面の問題	スポーツセンタートイレで 指標(指標計算式/解説)		及び実績値
【どのような状態 になることを目指 したのか(意図)】	トイレの改修により、衛生的で快適な施設空間を確保する。	①スポーツセンタートイレ改修	目標年度目標値実積値	平成23年度 1 式 1 式
【その結果、どの ような成果を実現 したいか】 ※成果=目的	スポーツセンターを利用する町民に対し、衛生的で快適なトイレ空間を提供することにより、スポーツセンターのイメージアップが図られ、スポーツ振興の一助となる。	2	目標年度 目標値 実績値 産成度	%
	内 容(どのような手段で	可を行ったか)	<u> </u>	
トイレ改修	便器取替			

3 事務事業の評	i価(Check)		裏		
	要性(町民ニーズ・社会情報	勢に照らして妥当か、町が担う必要 章、既存事務事業との機能重複や			
必要	義務的なもの	公の施設の維持管理については、施設設置者である行政が実施 する必要がある。			
<mark>必要/概ね必要/</mark> 課題あり	全部 一部	7 022 X 100 00°			
(2)事務事業の有効	性(期待する効果が得られ	いたか)			
有効	設定した目標値の達成 状況 ■ 達成	トイレの改修により、衛生的で快た。	適な空間を提供することが出来		
有効/概ね有効/ 課題あり	<mark>ほぼ達成</mark> 下回る				
(3)事務事業の効率	性(コストに見合った効果)	が得られたか、計画上のコストをT	「げる工夫をしたか)		
効率的 効率的/概ね効率 的/課題あり	判断の理由 事業費抑制 人員削減 時間短縮・作業軽減	適切な予算執行により、快適な施 計画的に老朽化の解消を図ってい			
(4)事務事業の公平	<mark>∐■ その他</mark> :性				
公平/概ね公平/公平でない	判断の理由	競技者及び観覧者の利便性のためれている。	めの事業であり、公平性は保た		
B∶ほぼ計画通 C∶当初の計画	業が進んでいる。目標が達 iりに進んでいるが目標に違	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	收善が必要 等		
自己評	価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)		
	Α				
	向上を図るための施設整備 リ、計画どおり実施できた。				
今後の展開方 (Action)	in the second se				
継続/		<u> </u>	<u> </u>		
町民利用の促進を図	図るため、老朽化した施設 ミ施していく必要がある。				
*展開方向の区分 〇 継続/現状約	推持又は拡充又は縮小又は	統合又は内容の見直し・変更 〇	終了 〇 休止 〇 廃止		

<u>整理番号</u> 11 <mark>- 48</mark>

_1	事務事業の表	示								*	■ : 該	当
事	事務事業名 オムイ杯交流パークゴルフ大会協賛金											
		担当課名	各	Ž	教育振興	課		担当係	名	生涯教育係		
評	価 者	管理職	職名		課長		<i>U</i> -	成者	職名		主査	
			氏名		横田和幸				氏名		櫻井輝久	
		第20回オム し、運営の支			-クゴルフ:	大会に対	けし協	賛金を	支出		/単年度のみ	左曲〉
		し、連呂の文	抜を打り	0						(平成 23 国·道支		年度) 千円
事	業の概要									事地方		千円
7	不 55 版 文									業その		千円
										費一般則	才源	100 千円
										事業費	計	100 千円
実	施方法	■直営			民間委託	E		そ	の他()
	第5期総合	計画(前	期)		登載事業	ŧ		非登載	以事業	優先度	В	
		政策	目 標	3	のびやか	·雄武〜	~教	育・文化	上の振興	長興~		
		基本が	拖 策	13	生涯学習	・生涯ス	スポ−	ーツの	推進			
事	業の位置付け	単 位 が	拖 策	2	学習・スプ	ポーツ活	動の	り推進				
		事務事業の	り種類		自治事務	ξ,		法定受	託事務			
		その他計画・	根拠等		•							
	実施年度	20年度(実績	〔21	年度	(実績)	22年月	变(実	[績]	23年度	〔(実績)	24年度(見込)
	国·道支出金	千日	円		千円			千円		千円		千円
事	地 方 債	千日	7		千円			千円		千円		千円
業費	その他財源	千日	円		千円			千円		千円		千円
質	雄武町負担額(一般財源)	千日	円		千円			千円	1	00 千円		千円
	合 計	千	円		千円			千円	1	00 千円		千円

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成 上の成果指標)	状況を最も	端的に表す埋論			
【抱える課題や	記念大会の自主運営が困難である。	団体への補助	助				
ニーズは】		指標(指標計算式/解説)	目標値	直及び実績値			
		<mark>①</mark> 団体への補助	目標年度	平成23年度			
【どのような状態 になることを目指	運営経費の支援により、計画どおりの大		目標値	1 団体			
したのか(意図)】	会運営を図る。		実 績 値	1 団体			
			達成度	100.0 %			
【その結果、どの		2	目標年度				
ような成果を実現	大会開催による競技の普及び発展と、町		目標値				
したいか 】 ※成果=目的	の活性化を目的とする。		実 績 値				
∴ 从来一日时			達成度	%			
	内 容(どのような手段で	何を行ったか)					
オムイ杯交流パー クゴルフ大会協賛 金	協賛金として100,000円を助成し、大会	運営の支援を行った。					

3 事務事業の評	年 (Charle)		裹		
	要性(町民ニーズ・社会情報	勢に照らして妥当か、町が担う必要 章、既存事務事業との機能重複や			
必要	義務的なもの	パークゴルフは当町で愛好者の多とにより、競技のさらなる普及、競きることから、助成は必要である。	い競技であり、大会を支援するこ 技者意識の高まりが大いに期待で		
必要/概ね必要/ 課題あり	全部 	さることから、助成は必安である。			
(2)事務事業の有効	性(期待する効果が得られ	いたか)			
有効	設定した目標値の達成 状況 ■ 達成 ほぼ達成	計画どおり大会運営が行われ、 有効である。	多くの参加者が得られたことから		
課題あり	下回る				
(3)事務事業の効率	性(コストに見合った効果)	が得られたか、計画上のコストを	下げる工夫をしたか)		
効率的	判断の理由 事業費抑制 人員削減	町内外から多くの参加があり、当日 効果があった。	丁のPRにも貢献できたことから、		
効率的/概ね効率 的/課題あり	世 時間短縮·作業軽減 その他	333(10 63 572)			
(4)事務事業の公平	性				
公平/概ね公平/公平でない	判断の理由	広く参加者を募り開催している大会 多いため、公平性は保たれている	stであり、当町からの参加する者も 。		
B:ほぼ計画通 C:当初の計画	業が進んでいる。目標が遠 りに進んでいるが目標に遠 を達成できていない。事業	種成された。今後も計画通り事業を 達成していない。事業の進め方に 規模、内容、実施主体等の見直し 合、休・廃止の検討が必要 等	改善が必要 等		
自己評価	価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)		
	Α				
当町のパークゴルフ	の普及促進に貢献した。				

自己計画(一次計画)	計画云磯計画(一次計画)	叫文計	(二次計画)
Α			
当町のパークゴルフの普及促進に貢献した。			
今後の展開方向 (Action)		_	
終了	·		•
第20回を記念する大会を支援する助成であり、目的を果たすことが出来た。			
* 展開方向の区分	i合又は内容の見直し・変更 C)終了 ()	↓ ○ 廃止
5 その他特記事項(アンケート調査など外音		2入)	